平成31年度（一社）東京都バスケットボール協会　審判委員会名簿

役　　職	氏　　名	担　当（　所　属　連　盟）
ブロック長 委員長	平原 勇次	東京都ブロック総括 東京都総括（高体連男子部）
副委員長	草野 伸明	運営・TO(中体連)
〃	東 祐二	●指導（社会人連盟）
〃	長尾 繁徳	運営/指導(高体連女子専門部)
〃	嶋崎 貴	運営(社会人連盟)
〃	細田 知宏	総務/財務(社会人連盟)
委員	久保 裕紀	指導(社会人連盟)
〃	緒方 崇	指導(高体連女子専門部)
〃	村田 真	●総務(社会人連盟)
〃	山崎 昭一	●財務（社会人連盟）
〃	廣瀬 渉	総務(社会人連盟)
〃	伊藤 智博	●TO（高体連女子専門部）
〃	白川 義一	●運営（社会人連盟）
〃	谷古宇 孝	指導/運営（高体連男子部）
〃	濱 雄介	運営（社会人連盟）

役　　職	氏　　名	担　当（　所　属　連　盟）
委　員	和嶋 陽一	運営（社会人連盟）
〃	石鍋 光智代	●女性担当（高体連女子専門部）
〃	上杉 侑里子	総務/女性担当（ミニ連盟）
〃	管 祐介	TO(ミニ連盟)
〃	笠島 喜与都	TO(高体連男子部)
〃	出嶋 博史	TO(ミニ連盟)
〃	望月 直幸	総務(社会人連盟)
〃	松永 航平	運営(高体連女子専門部)
〃	奥山 美穂	女性担当(社会人連盟)
〃	加藤　暁生	財務（中体連）
〃	東條 輝正	総務（中体連）
〃	本間　さとみ	女性担当（社会人連盟）
〃	松浦 咲	女性担当（社会人連盟）
〃	八丁 茉莉佳	TO
〃	河野 佐紀子	TO

●は責任者

（一社）東京都協会所属連盟　審判委員長・副委員長

社会人連盟		高体連男子部		ミニ連盟		中体連		高体連女子専門部	
委員長	白川 義一	委員長	谷古宇 孝	委員長	出嶋　博史	委員長	草野 伸明	委員長	長尾 繁徳
副委員長	望月 直幸	副委員長	平原 勇次	副委員長	上杉 侑里子	副委員長	加藤 暁生	副委員長	緒方 崇
〃	奥山 美穂			〃	管 祐介	〃	東條 輝正	〃	須黒　祥子
〃	和嶋 陽一								

関東学連連絡担当
嶋崎 貴
岩井 遥河
村上 翔
山内 春菜

平成30年度　審判委員会活動報告

（1）日本協会主催事業

4/7～8 4/14～15	S級審査会(第一次)	遠藤 大輔/濱 雄介/嶋崎 貴/加藤 暁生/桑原 一貴
		松浦 咲/笠島 喜与都/山口 尭彰/佐藤 浩太
		島袋 竹志/上杉 侑里子/本間 さとみ
7/14～16	S級強化合宿(WJBL担当)	細田 知宏/須黒 祥子/小田中 涼子/富樫 彰子
7/27～29	S級更新講習 （第一回・聴講生を含む）	石田 祐二/石鍋 光智代/大河原 則人/緒方 崇/加藤 暁生
		加藤 誉樹/久保 裕紀/東條 輝正/針生 淳男/東 祐二/細田 知宏
8/10～12	S級更新講習 （第二回・聴講生を含む	岩井 遥河/漆間 大吾/遠藤 大輔/小田中 涼子/笠島 喜与都
		蒲 健一/管　祐介/桑原 一貴/嶋崎 貴/須黒 祥子/田久保 藍子
		富樫 彰子/平原 勇次/谷古宇 孝/和嶋 陽一/島袋 竹志
9/15～16	S級審査会	嶋崎 貴/笠島 喜与都/加藤 暁生/桑原 一貴/遠藤 大輔
1/4～1/5	U28ヤングオフィシャル キャンプ	千葉 美幸/稲田 翔人/上阪 紘也
3/25～27	新規A級審判研修会	石川 丈晴/新井 文明/稲田 翔人/一杉 あきの/五十嵐 菜美

（2）関東協会主催事業

6/1～3	関東高校男子	関東副審判長：平原 勇次 関東指名：大河原 則人
		山口 尭彰/望月 直幸/廣瀬 渉/新井 文明
6/9～10	関東高校女子	上杉 侑里子/桑原 一貴/加藤 暁生/五十嵐 菜美
8/7～9	関東中学	加藤 暁生/松浦 咲/吉宇田 太一/井澤 元花
8/17～19	国民体育大会関東予選	関東指名：谷古宇 孝
		石鍋 光智代/濱 雄介/佐藤 浩太
1/4～6	関東ミニ	粟竹 裕幸/川畑 睦/吉宇田 和泉
2/8～10	関東高校新人	遠藤 大輔/島袋 竹志/笠島 喜与都/石川　丈晴

（3）東京都協会主催事業

6/30～7/1	第一次B級審判 指名強化合宿	井澤 元花/粟竹 裕幸/上阪 紘也/伊東 純希/齋田 愛美
		石川 丈晴/赤星 隆幸/石黒 俊/塩見 大介/松永 航平
		中野 嗣久/伊佐 牧子/五十嵐 菜美/新井 文明/稲田 翔人
		吉田 俊昭/運道 慎/瓜田 真司/一杉 あきの/土井 理美
8/25,26	A級審判ブロック研修	貫井 義昭/渡辺 裕樹/吉宇田 和泉/白川 義一/鈴木 寿之
		長尾　繁徳/吉宇田 太一/藤代 透/向井 和宏/川崎 洋次郎
		杉浦 元一/濱 雄介/三好 英美/廣瀬 渉/笠島 喜与都
		上杉 侑里子/遠藤 大輔/斉藤 貴嗣/嶋崎　貴/草野 伸明
		望月 直幸/加藤 暁生/本間 さとみ/島袋 竹志/佐藤 浩太
		桑原 一貴/山口 尭彰【27名参加】
8/2	第一次女性B級審判員 講習会	女性　25名受講
10月13日	第二次B級審判 指名強化合宿	井澤 元花/斎田 愛美/石川 丈晴/赤星 隆幸/石黒 俊
		中野 嗣久/伊佐 牧子/五十嵐 菜美/新井 文明/稲田 翔人
		吉田 俊昭/運道 慎/瓜田 真司/一杉 あきの/土井 理美【15名参加】
9/22	第二次女性B級審判員 講習会	櫻井 栞/千葉 美幸/丸山 詩織/原添 さやか/佐々木 春花
		神谷 郁代/元橋 沙梨/吉岡 幸乃/三島 彩/大野 葵【10名参加】
11/24	A級審判審査会	石黒 俊/新井 文明/石川 丈晴/運道 慎/稲田 翔人
		五十嵐 菜美/伊佐 牧子/一杉 あきの/赤星 隆幸【9名参加】
11/10～11	B級審判審査会	65名受講
3/21	B級取得三年目講習会	男性　17名/女性　5名/合計　22名受講

平成31年度　審判委員会活動予定

（1）東京都主催事業

4／18	東京都審判員総会	芝学園講堂
5／3～5／26	都民体育大会	駒沢体育館他
6／1～6/30	夏季選手権大会	武蔵野総合体育館他
8／1～8／4	全国定時制通信制大会	駒沢体育館
8／31、9／1	オールジャパン東京都予選	調整中
9／7～9／16	生涯スポーツ大会	駒沢体育館他
9／1～9／28	東京都青年大会	武蔵野総合体育館他
9／29～11／4	秋季選手権大会	武蔵野総合体育館他
11／9～11／11	全国青年大会	調整中

（2）関東協会主催事業

6／1～2	関東高校男子	山梨県富士吉田市
	関東指名（　　）　派遣（　　／　　／　　）	
6／8～9	関東高校女子	茨城県日立市
	関東指名（　　）　派遣（　　／　　／　　）	
8／7～9	関東中学	埼玉県深谷市
	関東指名（　　）派遣（　　）	
8／18～19	国民体育大会関東ブロック予選	千葉県船橋市
	関東指名（　　）　派遣（　　／　　）	
1／4～5	関東ミニ	東京都府中市他
	派遣（　　／　　／　　）	
2／8～9	関東高校新人	山梨県甲府市
	関東指名（　　）　派遣（　　／　　）	

（3）審査会・講習会事業

6／15～6／16	B級審判指名強化合宿（一次）	東京都夏季選手権大会使用
8／30、9／1	A級審判ブロック研修合宿	オールジャパン東京都予選使用予定
8月初旬	第一次女性B級審判員講習会	全国定通大会使用予定
9月中旬	第二次女性B級審判員講習会	東京都青年大会使用予定
10月中旬	B級審判指名強化合宿（二次）	関東学生リーグ使用予定
未定	A級審判審査会	社会人リーグ戦使用
11／9～10	B級審判審査会	全国青年大会
3月予定	B級取得三年目講習会	調整中

※別紙【平成31度　年間行事予定表】を参照下さい。

平成31年度　年間行事予定表　NO-1

（一社）東京都バスケットボール協会　審判委員会

	4月			5月			6月		
		東京	関東大会/日本協会		東京	関東大会/日本協会		東京	関東大会/日本協会
1	月			水	男⑤	関東学生	土	夏季①男③	関東高校男子 学生新人 関東女子 関東学生新人
2	火			木			日	女④中③	
3	水			金	都民①女⑥		月		関東学生新人戦（本戦）
4	木			土	都民②男⑥女⑦	関東女子学生	火		
5	金			日	男⑦女⑧		水		
6	土			月			木		
7	日	女①		火		関東女子学生トーナメン	金		
8	月			水			土	夏季②	関東高校女子 学生新人 関東女子
9	火			木			日	夏季③男④女⑤	
10	水			金			月		
11	木			土	都民③		火		
12	金			日	都民④女①		水		
13	土			月			木		
14	日	男①女②		火			金		
15	月			水			土	夏季④女⑥	指名一次 学生新人 関東女子
16	火			木			日	夏季⑤男⑤女⑦	
17	水			金			月		
18	木	審判員総会		土	都民⑤		火		
19	金			日	都民⑥男①女②中①		水		
20	土		関東学生	月			木		
21	日	男②女③		火			金	男⑥女⑧	
22	月			水			土	男⑦女⑨	
23	火			木			日	男⑧女⑩	
24	水			金			月		
25	木			土		関東女子学生新人 関東学生新人	火		
26	金			日	都民⑦男②女③中②		水		
27	土		関東女子学	月			木		
28	日	男③女④	関東学生	火			金		
29	月	男④女⑤		水			土	夏季⑥	
30	火			木			日	夏季⑦	
31				金					

	7月			8月			9月		
		東京	関東大会/日本協会		東京	関東大会/日本協会		東京	関東大会/日本協会
1	月			木		インターハイ	日	AJ予選②都青①ミ①	関東学生女子学生
2	火			金			月		
3	水			土			火		
4	木			日			水		
5	金			月			木		
6	土			火			金		
7	日			水		全国教員大会 関東中学	土	都生①	関東学生女子学生
8	月			木			日	都生②	
9	火			金			月		
10	水			土			火		
11	木			日			水		
12	金			月			木		
13	土			火			金		
14	日			水			土		関東学生女子学生
15	月			木			日	都生③ミ②	
16	火			金			月	都青②都生④ミ③	
17	水			土		全国レディース（中地域） 国体関東予選	火		
18	木			日	女①		水		
19	金			月	女②		木		
20	土			火	女③		金		
21	日	中①		水	女④		土		関東学生女子学生 全国マスターズ
22	月	中②		木		全国中学	日	ミ④	
23	火	中③		金			月	都青③	
24	水			土		関東学生	火		
25	木	中④		日			水		
26	金	中⑤		月			木		
27	土		関東オールバージ インターハイ	火			金		
28	日		全国定通大会	水			土	都青④	関東学生女子学生
29	月			木			日	秋季①	
30	火			金			月		
31	水			土	AJ予選①	A級ブロック 関東学生女子学生			

備考	
	男高関東予選:4/14～5/5
	女高関東予選:4/7～5/5
	都社会人リーグ戦:4/13～27
	関東女子学生選手権大会:4/27～5/12
	関東大学選手権大会:4/20～5/5
	都民大会:5/3～5/26
	男高総体予選:5/19～6/22
	女高総体予選:5/12～6/23
	中学春季:5/19～6/2
	男子社会人関東地域リーグ:5月下旬～12月上旬
	女子関東・東海地域リーグ:5月下旬～12月上旬
	都社会人リーグ戦:5月上旬～11月下旬
	都夏季:6/1～6/30
	関東学生新人戦:5/26～6/9
	関東女子学生新人戦:5/25～6/16
	中学選手権大会:7/21～26
	都社会人リーグ戦:6/24～7/8,15～29
	全国高校総体:7/27～8/2
	女高夏季:8/18～21
	関東学生リーグ戦:8/24～11/10
	全国定通大会:8/1～4
	全国中学:8/22～25
	オールジャパン東京都予選 8/31,9/1
	関東女子学生リーグ戦:8/31～11/3
	都生涯:9/7～16
	都青年:9/1～28
	都秋季:9/29～11/4

平成31年度　年間行事予定表　NO-2

（一社）東京都バスケットボール協会　審判委員会

	１０月			１１月			１２月			１月			２月			３月			
		東　京	関東大会/日本協会		東　京	関東大会/日本協会		東　京	関東大会/日本協会		東　京	関東大会/日本協会		東　京	関東大会/日本協会		東　京	関東大会/日本協会	
1	火			金			日	中④		水			土		関東社会人選手権予選	日			1
2	水			土	都秋⑥	全国レディース（東地域）	月			木			日			月			2
3	木			日	男選①男新③女新①女②		火			金			月			火			3
4	金		国民体育大会	月	都秋⑦男選②男新④女新②女③		水			土		関東ミニ	火			水			4
5	土	秋季②	関東学生女子学生	火			木			日	男新①		水			木			5
6	日			水			金			月			木			金			6
7	月			木			土			火			金			土			7
8	火			金			日	都社①中⑤		水			土		関東高校新人	日			8
9	水			土	男選③	B級審査会 全国青年大会	月			木			日			月			9
10	木			日	男新⑤男選④女新③		火		全国大学選手権大会	金		決勝ラウンド AJ	月			火			10
11	金			月			水			土	女新⑥		火	男①		水			11
12	土	秋季③	関東学生女子学生	火			木			日	男新②女新⑦ミ①		水			木			12
13	日	秋季④		水			金			月	男新③女新⑧ミ②		木			金			13
14	月			木			土			火			金			土			14
15	火			金			日	都社②		水			土		社会人地域リーグチャンピオンシップ	日			15
16	水			土			月			木			日			月			16
17	木			日	男新⑥女新④中①		火			金			月			火			17
18	金			月			水			土	男新④女新⑨		火			水			18
19	土	秋季⑤	関東学生女子学生	火			木			日	男新⑤女新⑩ミ③		水			木			19
20	日	男新①		水			金			月			木			金		全日本社会人選手権大会	20
21	月			木			土	都社③		火			金			土	社会人ブロック入替戦		21
22	火			金			日	都社④		水			土			日			22
23	水			土	女新⑤中②	全国オーバーエイジ	月	都社⑤	ウィンターカップ	木			日			月			23
24	木			日	中③		火			金			月			火			24
25	金			月			水			土			火			水		全国U15（ブレ大会）	25
26	土		関東学生女子学生 全国レディース（西地域）	火			木			日	ミ④		水			木			26
27	日	男新②女①		水			金			月			木			金			27
28	月			木			土	都社⑥		火			金			土		全国ミニ	28
29	火			金			日			水			土			日			29
30	水			土		二次ラウンド AJ	月			木						月			30
31	木						火			金						火			31
備考	男高新人支部：10/21～11/17 女高東京都二次予選10/27～11/4			女高新人：11/3～1/19 男高都高校選手権：11/3～1/19 中学新人大会：11/17～12/8 都社会人選手権大会：11月下旬～12月			都社会人選手権大会：12/8～12/28			男高新人本大会：1/5～19 ミニ鈴木正三杯：1/12～26			男高支部対抗選抜：2/11						備考

公益財団法人日本バスケットボール協会　平成31年度(2019年度）競技大会開催日程

2019(H31)年2月27日現在 (6)

■国内大会		開催期日	開催地
3x3 JAPAN TOUR		4月 ～ 2020/1月	全国各地
第2回社会人地域リーグ		6月 ～ 12月	全国各地
平成31年度全国高等学校定時制通信制体育大会 第29回バスケットボール大会		7/28 ～ 8/1	東京都内 世田谷区
平成31年度全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技大会(インターハイ)		7/27 ～ 8/2	鹿児島県　薩摩川内市 いちき串木野市
平成31年度全国専門学校総合体育大会 第24回全国専門学校バスケットボール選手権大会		8/20 ～ 8/23	宮城県　仙台市
第49回全国中学校バスケットボール大会		8/22 ～ 8/25	和歌山県　和歌山市
第54回全国高等専門学校体育大会　バスケットボール競技		8/24 ～ 8/25	島根県　松江市
B3リーグ　2019-20シーズン		調整中	全国各地
B.LEAGUE 2019-20 SEASON	B2リーグ	調整中	全国各地
第95回天皇杯第86回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会	1次R	9/21 ～ 9/23	関東・近畿・四国
	2次R	11/30 ～ 12/1	全国8か所予定
	FR	2020/1/9 ～ 2018/1/12	埼玉県　さいたま市
日本スポーツマスターズ2019　ぎふ清流大会 バスケットボール競技		9/21 ～ 9/24	岐阜県　岐阜市
B.LEAGUE 2019-20 SEASON	B1リーグ	調整中	全国各地
第21回Wリーグ		10/4 ～ 2020/4/6	全国各地
第74回国民体育大会　バスケットボール競技		10/4 ～ 10/8	茨城県　日立市、水戸市
第2回日本社会人レディースバスケットボール交流大会	東地域	11/2 ～ 11/3	北海道　札幌市
第2回日本社会人レディースバスケットボール交流大会	中地域	10/末 ～ 11/上旬	京都府
第2回日本社会人レディースバスケットボール交流大会	西地域	10/26 ～ 10/27	山口県　防府市
第2回全日本社会人Over40バスケットボール選手権大会 第2回全日本社会人Over50バスケットボール選手権大会		11/23 ～ 11/25	宮城県　仙台市
第71回全日本大学バスケットボール選手権大会		12/9 ～ 12/15	東京都内　調整中
第17回全国専門学校バスケットボール選抜大会		12/13 ～ 12/15	沖縄県　豊見城市
ウインターカップ2019　2019年度第72回全国高等学校 バスケットボール選手権大会		12/23 ～ 12/29	東京都　調布市 ＋1会場調整中
第2回社会人バスケットボール地域リーグチャンピオンシップ		2020/2/15 ～ 2/18	岡山県　岡山市
第2回全日本社会人バスケットボール選手権大会		2020/3/20 ～ 3/22	愛知県　豊田市
全国U15バスケットボール選手権プレ大会（仮称）		2020/3/26 ～ 3/29	東京都　調布市
第51回全国ミニバスケットボール大会		2020/3/28 ～ 3/30	調整中
第5回3x3日本選手権大会		調整中	
第6回3x3 U18日本選手権大会		調整中	

■国際大会	開催期日	開催地
第42回李相佰盃日韓学生バスケットボール競技大会	5/17 ～ 5/19	愛知県　名古屋市
第30回ユニバーシアード競技大会	7/3 ～ 7/14	イタリア　ナポリ
FIBA U19 Women's World Cup 2019	7/20 ～ 7/28	タイ　バンコク
FIBA Women's ASIA CUP 2019	7月 ～ 9月	未定
FIBA World Cup China 2019	8/31 ～ 9/15	中国
FIBA Asia Champions Cup	9/24 ～ 9/29	未定
FIBA Women's Olympic Pre-Qualifying Tournaments 2019	11/11 ～ 11/21	未定
FIBA Asia Cup 2021 Qualifiers	11/25 ～ 12/3	未定
FIBA Women's Olympic Qualifying Tournaments 2020	2/3 ～ 2/13	未定
FIBA Asia Cup 2021 Qualifiers [H&A方式]	2/17 ～ 2/25	未定
FIBA U16 Asian Championship	未定	未定
FIBA U16 Women's Asian Championship	未定	未定
第41回男子ウィリアム・ジョーンズカップ（招聘大会）	未定	未定
第41回女子ウィリアム・ジョーンズカップ（招聘大会）	未定	未定
第27回日・韓・中ジュニア交流競技会	未定	未定
バスケットボール男子 日本代表国際強化試合2019	未定	未定
バスケットボール女子 日本代表国際強化試合2019　三井不動産カップ（水戸大会）	5/31 ＆ 6/2	茨城県　水戸市

■国際大会(3x3)	開催期日	開催地
FIBA3x3 U18ワールドカップ2019	6/3 ～ 6/7	モンゴル
FIBA3x3ワールドカップ2019	6/18 ～ 6/23	オランダ
FIBA3x3 U23ワールドカップ2019	10/2 ～ 10/6	中国　西安市

■共催大会	開催期日	開催地
天皇杯　第47回日本車いすバスケットボール選手権大会	5/10 ～ 5/12	東京都　調布市
2019 FIDジャパン・チャンピオンシップバスケットボール大会（第24回）	8/3 ～ 8/4	長野県　佐久市
B.LEAGUE　U15 CHALLENGE CUP 2019	8/13 ～ 8/15	東京都　立川市
第6回理事長杯全日本デフバスケットボール選手権大会	10/19 ～ 10/20	未定
B.LEAGUE　U15 CHAMPIONSHIP2020	12月下旬 ～ 2020/1月上旬	調整中
文部科学大臣杯争奪	調整中	
皇后杯第30回記念日本女子車いすバスケットボール選手権大会	12/7 ～ 12/8	兵庫県　神戸市

2018年度審判委員会事業報告

月	カテゴリー	事業	日・曜日	場所	備考
3月	会議	第4回審判委員会・第4回ブロック連携会議	31（土）	東京（NTC）	
4月	会議	平成30年度全国審判長会議	31（土）～4/1(日)	東京（NTC）	
	審査会	京王電鉄杯	7（土）8（土）14（日）	東京	S級一次審査（男子）兼BLGチャレンジ
	3×3	トーナメントEXEファイナル	7（土）8（土）	仙台	
	審査会	関東女子カレッジスプリングキャンプ	15（日）	東京（日女体）	S級一次審査（女子）
	会議	3×3部会	20（金）	東京（JBA）	全国組織化に向けて
	会議	女性分科会	22（日）	東京（JBA）	全国組織化に向けて
5月	3×3	Japan Tour 開幕	4（土）	東京	5月～9月
	3×3	3×3日本選手権	25（金）～27（日）	東京（武蔵野の森）	
6月	WG	審判マニュアルWG立ち上げ	6（水）	東京（JBA）	6月～9月（２PO、３PO）
	3×3	プレミアEXE 開幕	9(土)	東京他	6月～9月
	会議	テクニカル、トップリーグ/強化部会	21（木）	東京（JBA）	トップリーグ担当審判選考
	会議	第1回ブロック連携会議	6月～8月	10ブロック	
	講習会	暫定T級インストラクター認定講習会	30（土）7/1（日）	東京	（兼）暫定T級インストラクター更新講習会
7月	講習会	2級インストラクター認定講習会	7月～8月	10ブロック	暫定T級および暫定１級派遣
	研修会	WJBLサマーキャンプ	14(土)～16(祝・月)	長崎県大村市	女性審判研修会兼WJBL担当審判研修兼S級一次合格者強化合宿（女子）
	会議	第1回審判委員会（新委員会メンバー）	21（土）	東京（JBA）	6月24日臨時理事会、7月11日理事会後
	講習会	S級更新講習会兼TLG審判研修①	27(金)～29(日)	東京都	S級更新講習会①兼FIBA研修①
8月	大会	インターハイ	2（木）～7（火）	愛知県（小牧・一宮）	
	大会	教員大会	7(火)～10(金)	茨城県	
	講習会	S級更新講習会兼TLG審判研修②	10(金)～12(日)	東京都	S級更新講習会②兼FIBA研修②
	大会	BLGU15チャンピオンシップ	15（水）～17(金)	東京都大田区	
	大会	全国中学校	22（水）～25（土）	山口県（山口市・防府市）	
9月	3×3	Japan Tour Final	1（土）2（日）	東京	
	大会	BLGアーリーカップ	7（金）～9（日）	仙台・宇都宮・長野（千曲市）・豊橋・大阪・松江	
	大会・審査会	天皇杯皇后杯１stラウンド	15(土)～17(月)	山口・岐阜・仙台	S級最終審査会（岐阜・仙台）
	3×3	プレミアEXE FINAL	15（土）16（日）	東京	
	大会	B2、B3開幕	28（金）		
	会議	第2回審判委員会・第3回ブロック連携合同会議	30（日）	福井県福井市	
10月	講習会	3級審判インストラクター（eラーニング開始）	10月～12月		
	大会	国民体育大会	1(月)～5(金)	福井県福井市・永平寺町	
	大会	B1開幕	4（木）		～2019年5月
	WG	ルールブック改正WG	15（月）	JBA	2019年度版ルールブック改正
	大会	Wリーグ開幕	19（金）		～2019年2月
12月	大会	天皇杯皇后杯2ndラウンド	1(土)～2（日）	岩手・栃木・神奈川・愛知・京都・大阪・徳島・松山	
	3×3	3×3U18日本選手権	7(金)~9(日)	群馬県高崎市	
	大会	インカレ		東京	
	大会	ウインターカップ	23(日)～29(日)	東京	
1月	研修会	BLGU15フレンドシップカップ	5（土）～6（日）	群馬県大和市	U28YOC①
	~~会議~~	~~第3回審判委員会~~	~~初旬~~		~~2月23日（土）へ~~
	~~会議~~	~~第4回ブロック連携会議~~	~~未定~~		~~2月23日（土）へ~~
	大会	天皇杯皇后杯Finalラウンド	10(木)～13(日)	埼玉県大宮市	
	~~研修会~~	~~BLGU15フレンドシップカップ~~	~~19（土）～20（日）~~	~~関西（未定）~~	~~U28YOC②→BLG奈良主催大会に変更のため不可~~
2月	大会	社会人チャンピオンシップ	9(土)～12(火)	群馬県高崎市	
	WG	2019年度版ルールテスト作成WG	13（水）	JBA	3月中旬にHPへアップ予定
	研修会	3×3男子オリンピック選手選考会	15（金）～17（日）	岡山県岡山市	3×3審判TC（トーナメントチーフ）研修会
	会議	第3回審判委員会	23（土）	東京（JBA）	2019-20FIBA推薦者
	会議	第4回ブロック連携会議兼ブロックIR責任者会議	23（土）	東京	
	会議	全国審判長会議	24（日）	東京	2019年度事業予定、新ルール伝達等
3月	大会	社会人バスケットボール選手権大会	16(土)～18(月)	鳥取県鳥取市	
	研修会	BLGU15チャレンジカップ	25（月）～27（水）	東京都立川市	新規A級強化研修会→平日開催に変更のため強制とはしない（今年度は事業化していたため、受講料20,000円で交通宿泊費込み）→2019年度は廃止
	大会	ジュニアオールスター	28(木)～30(土)	東京都	
	大会	全国ミニバスケットボール	28(木)～30(土)	群馬県	

2018(H30)年度　ブロックA級審査結果

ブロック		一次招集人数		一次合格者		二次合格者		**最終合格者**	
		男女別	合計	男女別	合計	男女別	合計	**男女別**	**合計**
北海道	男性	14	15	6	6	6	6	**2**	**2**
	女性	1		0		0		**0**	
東北	男性	16	26	16	26	7	10	**2**	**2**
	女性	10		10		3		**0**	
関東	男性	15	30	9	15			**4**	**6**
	女性	15		6				**2**	
東京	男性	14	20	9	15	6	9	**3**	**6**
	女性	6		6		3		**3**	
北信越	男性	11	13	8	9		0	**5**	**6**
	女性	2		1				**1**	
東海	男性	8	16	6	12	5	9	**4**	**6**
	女性	8		6		4		**2**	
近畿	男性	13	24	9	15			**1**	**3**
	女性	11		6				**2**	
中国	男性	11	13	西日本豪雨で中止				**6**	**7**
	女性	2						**1**	
四国	男性	9	12	9	12	6	9	**4**	**5**
	女性	3		3		3		**1**	
九州	男性	24	32	12	15			**5**	**5**
	女性	8		3				**0**	
合計	男性	135	201	84	125	30	43	**36**	**48**
	女性	66		41		13		**12**	

【審判員登録人数推移（FIBAライセンスはS級ライセンス人数に含まれる）】

審判ライセンス	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	**2019年度（予定）**
FIBA	21	21	13	13	
S級（全国）	91	94	102	125	**144（+19）**
A級（ブロック）	249	269	273	264	**293（+29）**
B～E級（都道府県）	7,007	40,165	44,667	47,902	
合計	7,347	40,528	45,042	48,339	
前年度比		552%	111%	107%	

１．審判ライセンスの全国統一化を実施した結果、2016年度に前年比552%の審判員数増加となり、その後順調に増加している。

２．**上級ライセンスであるS級審判員は180～200名、A級審判員は300～350名を目標に**育成強化していきたい。

【審判インストラクター人数】

インストラクターライセンス	**2019年度**	指導対象審判員数との対比	
T級（トップリーグ）	**27**	71%（102/ 1 44）	S級審判員
1級（全国）	**75**		
2級（ブロック）	**284**	97%（284/293）	A級審判員
3級（都道府県）	**1,931**	4%　（1,931/47,902）	B級以下審判員
合計	**2,317**	4.8%　（2,317/48,339）	全審判員

１．2019年度からインストラクター制度を実施。

２．**上級ライセンス（T級・1級・2級）の取得者比率は非常に高いが、3級インストラクターの取得者比率が低い。10%（約5,000名）を目標としては育成していきたい。**

2019年度　都道府県別審判インストラクター数

			T級	1級				2級					3級					合計
				S級	A級以下	OB	合計	S級	A級	B級以下	OB	合計	A級	B級	C級以下	OB	合計	
1	北海道	北海道ブロック		1			**1**	2	11	1		**14**	2	54	3		**59**	**74**
	東北	東北ブロック	**1**	10		1	**11**	5	23		4	**32**	5	194	5	7	**211**	**255**
2		青森		1			**1**		5		1	**6**		13	3		**16**	**23**
3		岩手		1			**1**	1	4		1	**6**	1	19			**20**	**27**
4		宮城	**1**	3		1	**4**	1	5			**6**	2	16			**18**	**29**
5		秋田		3			**3**	1	3		1	**5**	1	94	1	7	**103**	**111**
6		山形					**0**		3		1	**4**	1	9	1		**11**	**15**
7		福島		2			**2**	2	3			**5**		43			**43**	**50**
	関東	関東ブロック	**9**	16			**16**	8	32		5	**45**	9	312	5	2	**328**	**398**
8		茨城		2			**2**	2	4		2	**8**	1	33	3		**37**	**47**
9		栃木		3			**3**	1	5		2	**8**	1	13			**14**	**25**
10		群馬	**1**	1			**1**		1			**1**	2	17			**19**	**22**
11		埼玉	**2**	2			**2**	2	3			**5**	1	37			**38**	**47**
12		千葉	**2**	3			**3**	1	8		1	**10**	2	167	2	2	**173**	**188**
13		神奈川	**4**	4			**4**	2	7			**9**	1	6			**7**	**24**
14		山梨		1			**1**		4			**4**	1	39			**40**	**45**
15	東京	東京ブロック	**8**	13			**13**	8	23	1		**32**	5	318	16	4	**343**	**396**
	北信越	北信越ブロック	**2**	2	1		**3**	5	19		2	**26**	4	222	8	1	**235**	**266**
16		長野					**0**	2	3		1	**6**	2	53	2		**57**	**63**
17		新潟	**1**				**0**	2	4			**6**	1	64			**65**	**72**
18		富山		1			**1**	1	3			**4**		31			**31**	**36**
19		石川		1	1		**2**		6		1	**7**	1	53	6	1	**61**	**70**
20		福井	**1**				**0**		3			**3**		21			**21**	**25**
	東海	東海ブロック	**1**	4	1	1	**6**	6	23		1	**30**	2	201	3	1	**207**	**244**
21		岐阜					**0**		9			**9**		20			**20**	**29**
22		静岡		1			**1**	2	4		1	**7**	1	89			**90**	**98**
23		愛知	**1**	2	1	1	**4**	3	8			**11**	1	57		1	**59**	**75**
24		三重		1			**1**	1	2			**3**		35	3		**38**	**42**
	近畿	近畿ブロック	**4**	7			**7**	10	24		3	**37**	6	158	7	0	**171**	**219**
25		滋賀					**0**		3			**3**		22			**22**	**25**
26		京都	**1**	3			**3**	2	4			**6**		22	3		**25**	**35**
27		大阪	**1**	4			**4**	2	7		1	**10**	3	72	4		**79**	**94**
28		兵庫	**2**				**0**	2	7		1	**10**	2	27			**29**	**41**
29		奈良					**0**	2	2		1	**5**		8			**8**	**13**
30		和歌山					**0**	2	1			**3**	1	7			**8**	**11**
	中国	中国ブロック	**2**	4		1	**5**	6	17		4	**27**	6	108	18	1	**133**	**167**
31		鳥取		1			**1**		4		1	**5**		20	1		**21**	**27**
32		島根				1	**1**	2	2			**4**		7			**7**	**12**
33		岡山	**1**				**0**	1	4		1	**6**	2	21	2		**25**	**32**
34		広島		1			**1**		5		2	**7**	2	28	4		**34**	**42**
35		山口	**1**	2			**2**	3	2			**5**	2	32	11	1	**46**	**54**
	四国	四国ブロック		7			**7**	1	8		3	**12**	5	67	3	0	**75**	**94**
36		徳島		1			**1**		2		1	**3**	1	17	1		**19**	**23**
37		香川		3			**3**		2		1	**3**	2	19	2		**23**	**29**
38		愛媛		3			**3**	1	2			**3**	1	23			**24**	**30**
39		高知					**0**		2		1	**3**	1	8			**9**	**12**
	九州	九州ブロック		4		2	**6**	4	23		2	**29**	7	153	7	2	**169**	**204**
40		福岡					**0**	1	6		1	**8**	1	15			**16**	**24**
41		佐賀		1		1	**2**		1			**1**	1	13	3		**17**	**20**
42		長崎		1			**1**	1	3			**4**	2	28			**30**	**35**
43		熊本					**0**	1	4			**5**		25			**25**	**30**
44		大分		1			**1**		1		1	**2**	1	18			**19**	**22**
45		宮崎					**0**		2			**2**		14	3		**17**	**19**
46		鹿児島				1	**1**		3			**3**	1	3			**4**	**8**
47		沖縄		1			**1**	1	3			**4**	1	37	1	2	**41**	**46**
		合計	**27**	68	2	5	**75**	55	203	2	24	**284**	51	1,787	75	18	**1,931**	**2,317**
			2,317															

平成 30 年 10 月 17 日

広島県立広島皆実高等学校
校長 [redacted] 殿

2018 年度広島県ウィンターカップ女子準決勝
広島皆実高校対広島観音高校における得点ミスに関する報告書

（一財）広島県バスケットボール協会
会長 [redacted]
広島県高等学校体育連盟バスケットボール専門部
部長 [redacted]

平成 30 年 10 月 14 日（日）に開催された広島県ウィンターカップ予選女子準決勝の広島皆実高等学校（以下「皆実」）と広島観音高等学校（以下「観音」）の試合での得点ミスについて、以下のとおり報告する。

なお、今回の報告書は、（一財）広島県バスケットボール協会（以下「県協会」）専務理事[redacted]と広島県高等学校体育連盟バスケットボール専門部（以下「専門部」）委員長[redacted]が、関係者への聞き取りおよび映像を確認したうえで作成した。

１．経緯

平成 30 年 10 月 14 日（日）

（１）広島県ウィンターカップ予選女子準決勝終了後、皆実 HC から得点の件および審判の対応について、高体連専門委員長および審判委員長に状況説明を求めた。

（２）その後、審判控室にてスコアシートおよび映像による確認を行い、3 点が得点されていないことが認められた。

（３）担当審判クルーチーフへ報告書の作成依頼

平成 30 年 10 月 15 日（月）

（１）さらに詳細把握のためクルーチーフからの報告書再提出を求めた。

（２）10 月 16 日（火）に関係者（県協会幹部、審判・TO 関係者他）への協議会実施の通知

平成 30 年 10 月 16 日（火）

（１）県協会事務局にて協議会実施（19:30～21:00）

協議会内容　現場担当者（審判・TO 主任）による事実確認後、常務会により今後の対応協議

２．事実確認について

第 4Q 開始　皆実 40-33 観音

①残り 9 分 40 秒頃　皆実 No.7 のドライブに対して観音 No. 1 3 がブロッキングファウルバスケットカウント（得点 42-33）およびファウルによるフリースロー（得点 43-33）が 1 本あった。

②残り 9 分 30 秒頃　観音 No.13 がジャンプシュートを決める（得点 43-35）

③残り 9 分 00 秒頃　皆実マネージャーが皆実 NO7 のドライブに対してのファウル（上記①のケース）した観音選手の番号を TO へ質問に行き、TO と確認している時に皆実 NO12 の 3 P が入った。この 3 P に対しては、その時センターポジションにいた審判員が確認し 3 P カウントのジェスチャーを行っている。ただし、スコアラー等 TO はマネージャーの質問による確認作業のため皆実 NO12 の 3P を確認することができなかった。また TO 主任もその質問の様子をうかがってい

たため３Ｐの確認をすることができなかった。そのため本来は得点が 46－35 となるべきであったが、表示は 43-35 のままでゲームが進行した。

④残り８分 30 秒頃　OOB 後のタイムアウト時に、皆実マネージャーから３点が得点されていないことに対する確認が TO にあったため、TO 席付近にいた審判員が両チームのスコアシートを確認したが、結果的に TO と観音のスコアが一致していたため、得点変更せず 43-35 で試合を再開させた。

⑤残り４分 43 秒　皆実のタイムアウト明けに、皆実 HC から得点の確認を求められたため、再度両チームのスコアブックおよび TO のスコアシートの確認を行ったが、TO と観音のスコアが一緒であったため得点の修正をせず試合を再開させた。

３．検証結果

４Ｑ残り９分 00 秒頃の皆実 NO12 の 3P が得点されていなかった事実が認められた。

４．この事象が発生した原因について

（１）TO および TO 主任は皆実のマネージャーと確認作業を行っていたため、３Ｐのカウントを確認することができなかった。

（２）審判員について

①皆実 NO12 の 3P に対して確認を行ったセンターポジションの審判員が得点の確認を怠っていた。

②TO のスコアシートと両チームのスコアブックを確認したが、観音のスコアと TO のスコアが一致していたこと。

③レフェリーが両チームのスコアと TO のスコアブックを確認する際に、皆実から主張があった３点の間違いについては上記２①の３点プレーと２③の３Ｐとを勘違いしていたことも原因のひとつと考えられる。なお、この勘違いの原因はクルー内でのコミュニケーション不足であった。

５．今後の対応について

（１）ウィンターカップ女子準決勝皆実対観音の再試合は実施しない。

①競技規則に則り試合は成立している。競技規則 44-2-6、46-9

②残り９分 00 秒頃の皆実 NO12 の３Ｐが得点されていなかったのは事実であるが、この事実が敗因の全てと認定するには至らなかったと判断する。

（２）審判員に対して

①担当審判員に対しては、一定期間の研修を課し、県協会審判委員会として指導を行う。

②全審判員に対して、再発防止の注意喚起を徹底する。

（３）TO 主任に対して

①TO を指導すべき TO 主任の役割、任務について明確にするため文書として作成し徹底していく。また県協会として TO 指導に関する組織化を早急に行う。

６．総括

この度の試合における皆実高校女子バスケットボール部選手、スタッフおよび関係者の方々には、大会運営上のミスにより、多大なるご迷惑をおかけしたことを主催者として責任を強く感じるとともに、選手、保護者の方々の悔しい思いは計り知れないものであることも県協会として受け止めております。今後、このようなことが二度と起こらないように全力で取り組んでまいります。

最後になりますが、貴校の益々のご活躍とご発展を心よりご祈念申し上げます。

JBA JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION
JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION
6F KORAKU-KAJIMA BUILDING, 1-7-27 KORAKU, BUNKYO-KU, TOKYO 112-0004 JAPAN
TEL: +81-3-4415-2020 FAX: +81-3-4415-2021 WEB: http://www.japanbasketball.jp/

平成 30 年 10 月 24 日

ブロック審判長 各位
都道府県審判長 各位

公益財団法人日本バスケットボール協会
審判担当ダイレクター 宇田川貴生

審判員（TO 含む）の重大なミスによるトラブル対応について

日頃より当協会の活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、10 月 14 日に開催された広島県ウィンターカップ予選において、「認められるべき得点が認められなかった」という事案が発生しましたので、その状況および対応について、（一財）広島県バスケットボール協会および広島県高等学校体育連盟バスケットボール専門部のご了解のもと共有させていただきます。

こういった事案に対しては、速やかに誠実に対応する事が重要であり、対応が遅くなると SNS 等による映像拡散また感情的な問題により、解決が非常に困難になる場合があります。従って、皆様方におかれましては、まずは競技規則に則りトラブル防止を最優先として取り組んでいただき、もし重大なトラブルが発生した場合は下記手順を基本として対応していただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、JBA 審判としては各種情報の提供および共有を今後も継続して取り組んでまいりますが、もし緊急事案が発生した場合、都道府県審判長は速やかに JBA 審判に報告をしていただきますよう、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【状況】 別添「2018 広島 WC 報告書（20181017 最終版）」参照
別添「中国新聞 2018 年 10 月 17 日」参照 ※権利等の問題がありますので他への転用および HP 等への公開はお控えください

【基本対応】
1．重大なトラブル発生時は、主催団体である都道府県協会および都道府県連盟と速やかに連携
下記 2～5 については、主催団体と緊密に連携しながら進めていく
2．事実確認
客観的事実に基づき事実確認を行う（証言だけでなく映像により客観的事実の確認）
3．事実確認に基づき原因の究明
原因の明確化（トラブルの原因が明らかに審判（TO 含む）のミスであった場合はミスを認める）
4．再発防止
ミスに対する再発防止のための具体的方策および審判員への指導含め対応協議
5．上記 2～4 を明確にした上で、競技規則 44-2-6、46-9 に則り、成立した試合における得点等の訂正等は行わない（競技規則 P79「C-抗議の手続き」は、現在国内では適用していない）

【注意点】
1．判定におけるクレームに対しては必要以上の対応は不要とし、現場の審判の判定を原則尊重する。ただし、得点間違い、処置の間違い等により、その間違いが試合に重大な影響を及ぼすと判断した場合は上記対応を検討する。
2．ミスに対して協会および審判委員会が組織として責任をもって適切な指導を審判員に対して実施するとともに、指導期間中および指導後においては、組織として審判員を守る責務もある。

【お問合せ先】 公益財団法人日本バスケットボール協会 審判担当 宇田川 貴生
携帯 070-3192-1947 メールアドレス jba-ref@basketball.or.jp

2019年度審判委員会事業計画

2019年2月24日現在

月	カテゴリー	事業	日・曜日	場所	備考
4月	審査会	京王電鉄杯	6（土）7（土）13（土）	東京（エスフォルタアリーナ八王子）	S級一次審査（男子）兼BLGチャレンジ
	審査会	関東女子カレッジスプリングキャンプ	20（土）21（日）	東京（日女体）	S級一次審査（女子）
	3×3	Japan Tour 開幕	未定	神奈川	4月～2020年1月
5月	講習会	3級審判インストラクター（eラーニング開始）			①5月～8月 ②9月～12月
	大会	BLG FINAL・入替戦	11（土）12（日）	横浜	FINAL（11日）、入替戦（12日）
	3×3	プレミア.EXE 開幕	18（土）	東京（ワテラス）	5月18日～9月8日
	3×3	3×3トップリーグ研修	18（土）19（日）	東京	
	会議	テクニカル、トップリーグ/強化部会	21（火）予定	東京（JBA）	トップリーグ担当審判選考
	会議	第1回審判委員会	25（土）予定	東京（JBA）	
6月	会議	第1回ブロック連携会議	6月～8月	10ブロック	
7月	講習会	A級更新兼2級審判IR新規更新講習会	7月～8月	10ブロック	T級・１級審判インストラクター派遣
	研修会	WJBLサマーキャンプ	13（土）～15（祝・月）	長崎県大村市	~~女性審判研修会兼WJBL担当審判研修兼S級一次合格者強化合宿（女子）~~
	大会	インターハイ	27（土）～8/2（金）	鹿児島県 （隼摩川内市・いちき串木野市）	
8月	講習会	トップリーグ研修会①	2（金）～4（日）	東京都	兼T級1級審判IR・S級新規更新講習会兼FIBA研修兼S級一次合格者強化合宿
	講習会	トップリーグ研修会②	9（金）～11（日）	東京都	兼T級1級審判IR・S級新規更新講習会兼FIBA研修兼S級一次合格者強化合宿
	大会	BLGU15ALL STAR GAME	13（火）～15（木）	東京都立川市	U28YOC 東中西選抜3チーム・海外2チーム計5チームリーグ戦10試合
	大会	全国中学校	22（木）～25（日）	和歌山県和歌山市	
9月	大会	BLGアーリーカップ	14（土）～16（月）	仙台・千葉・新潟・愛知・大阪・福岡	
	大会	B3リーグ開幕	14（土）		
	大会	BLG開幕	21（土）		
	大会・審査会	天皇杯皇后杯１stラウンド	21（土）～23（月）	調整中	S級二次審査会（兵庫県予定）
	3×3	プレミア.EXE FINAL	7（土）8（日）	東京（六本木ヒルズ）	
10月	会議	第2回審判委員会・第2回ブロック連携合同会議	3（木）	茨城県（日立市）	
	大会	国民体育大会	4（金）～8（火）	茨城県（日立市・水戸市）	
	大会	Wリーグ開幕	4（土）		
11月	大会	3×3U18日本選手権	30（土）～12/1（日）	東京（大森ベルポート）	
	大会	天皇杯皇后杯2ndラウンド	30（土）～12/1（日）	8会場（未定）	
12月	大会	インカレ	9（月）～15（日）	東京	
	大会	ウインターカップ	23（月）～29（日）	東京	
1月	研修会	BLGU15チャンピオンシップ	6（月）～8（水）	愛知県豊田市	36チームによる大会
	会議	第3回審判委員会	初旬		
	大会	天皇杯皇后杯Finalラウンド	9（木）～12（日）	埼玉県（さいたま市）	
	3×3	Japan Tour FINAL	25（土）～26（日）	東京（大森ベルポート）	
2月	大会	社会人チャンピオンシップ	15（土）～18（火）	岡山県（岡山市）	S級三次審査会（自費受講）
	3×3	3×3日本選手権 OPEN	22（土）～23（日）	東京（大森ベルポート）	
	会議	第4回審判委員会	22（土）PM	東京	
	会議	第3回ブロック連携会議兼ブロックIR責任者会議	22（土）PM	東京	
	会議	全国審判長会議	23（日）	東京	2020年度事業計画、新ルール伝達等
3月	大会	社会人バスケットボール選手権大会	20（金）～22（日）	愛知県（豊田市）	
	大会	U15選手権プレ大会（仮称）	26（木）～29（日）	東京都（調布市）	
	大会	全国ミニバスケットボール	28（木）～30（土）	未定	

JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION
6F KORAKU-KAJIMA BUILDING, 1-7-27 KORAKU, BUNKYO-KU, TOKYO 112-0004 JAPAN
TEL: +81-3-4415-2020 FAX: +81-3-4415-2021 WEB: http://www.japanbasketball.jp/

2018FIBA 新ルール変更点 20190206

JBA 審判担当

2018FIBA 新ルールの適用については、以下の対応により実施する。

【変更点概略】 ①P（ピリオド） → Q（クォーター） （変更点１）審判関連
②競技規則に関する事項（変更点 3.4.5.6.7.8.9.10.11.12）審判関連
③ユニフォーム（身に付けるもの）に関する事項（変更点２）競技運営関連
④チームの順位決定方法に関する事項（変更点 13） 競技運営関連
⑤施設用具に関する事項（変更点 14） 競技運営関連

【適用時期】 ①②について ○トップリーグ（B123、W リーグ）は 2018-19 シーズンから ※アーリーカップ含む
○天皇杯皇后杯は 2nd ラウンドから
①のみ ○JBA 主催大会である Winter Cup、Jr All Star は、今年度から

１．P（ピリオド）から Q（クォーター）、延長ピリオドからオーバータイムの用語

【変更理由】 世界的に用語を統一し、バスケットボールにかかわる人々に使用されるものにするため。

【新ルール】 競技規則中の全ての箇所を変更する。
a) P（ピリオド）から Q（クォーター）へ名称変更
b)EP（延長ピリオド）から OT（オーバータイム）へ名称変更

２．第４条 ユニフォーム - 身につけるもの

【変更理由】 ゲームのイメージを損なわない範囲で身につけられるものの制限を最小化するため。

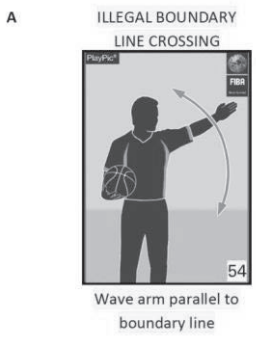
【新ルール】 チームで身につける全てのもの*は同一の単色かつ無地**でなければならない。
* ＝腕や脚のコンプレッションスリーブ、ヘッドギア、手首や腕のバンド
** ＝同一の単色かつ無地でチームの身につける全てのもの

【解釈】 身につけてはいけないもので「ヘルメット」を追加 →詳細は競技運営より

３．第 17 条 スローイン

【変更理由】 スローインのバイオレーションを防ぎ、ゲームの最後の 2 分間での遅延を防ぐため。

【新ルール】 17-3-3 第 4 クォーター、各オーバータイムでゲームクロックが 2:00 あるいはそれ以下を表示しているときに、ディフェンスのプレーヤーはスローインを妨げるために体の一部を境界線を越えてコートの外に出すことや、障害物からラインまでの距離が２m 未満のときに、スローインするプレーヤーの１m 以内に近づいてはならない。



※審判はスローインを与えるときに警告として
イリーガルバウンダリーラインクロッシングシグナル
（以下、プリベンティブシグナル 図 A）を使う。
※ゲームの最後の２分間でのスローインに対する遅延行為はテクニカルファウルとする。

【解釈 1】 第 4 クォーター、各オーバータイムの残り 2 分間で行われるスローインでは、スローインのボールを与える前に審判はプリベンティブシグナルを行い遅延行為を予防したうえで、遅延行為があった場合テクニカルファウルを宣する。

【解釈 2】 第 4 クォーター、各オーバータイムの残り 2 分間に至るまでにスローインを妨害する遅延行為によってバイオレーションがすでに宣せられていた場合や、類似の遅延行為を繰り返したためにテクニカルファウルがすでにそのチームに記録されていた場合も同様に、テクニカルファウルが宣せられる。

4．第 24 条 ドリブル

【変更理由】 現実のゲームに近づけ、魅力的なプレーを認めるため。

【新ルール】 ドリブルとは、ライブのボールをコントロールしたプレーヤーが、ボールを投げたり叩いたり転がしたりしてフロアに触れさせて、ボールを移動させることをいう。

※競技規則から削除部分：「バックボードを狙ってボールを投げて」

【解釈】「バックボードを狙ってボールを投げることはドリブルではない」とドリブルの定義がされたことで、ドリブルをしていた A1 がボールを持った後に、バックボードに向かってボールを当て、他のどのプレーヤーもボールに触れることなく、空中でボールをキャッチし、そのままショットまたはパスをする、またはボールを持ったままフロアに降りることが認められることとなった。また、それまでドリブルをしていなかった場合は、バックボードにボールを当てキャッチした後、新たにドリブルをすることができる。

5．第 29 条 24 秒ルール

【変更理由】 フロントコートでオフェンスのチームがショットをするための時間を短縮し、ゲーム中にフィールドゴールのショットの機会を増やすため。

【改正されたルール】

29-2-2 ショットクロックはボールをコントロールしていたチームが宣せられたファウルやバイオレーション（アウトオブバウンズを含む）によって、審判にゲームが止められたときいつでもリセットされる。
またショットクロックはオルタネイティングポゼッションによって、新たなオフェンスのチームにスローインが与えられる場合にもリセットされる。
直前にボールをコントロールしていた相手のチームに与えられるゲーム再開のスローインが：
- バックコートで行われる場合、ショットクロックは 24 秒にリセットされる。
- フロントコートで行われる場合、ショットクロックは 14 秒にリセットされる。

29-2-3 第 4 クォーター、各オーバータイムでゲームクロックが 2:00 あるいはそれ以下を表示しているときに、バックコートからボールの権利を得ることになっているチームにタイムアウトが認められた場合、そのチームのコーチはタイムアウト後に行われるスローインを、フロントコートのスコアラーズテーブルと反対側のスローインラインから行うか、バックコートから行うかを決定する権利を持つ。
スローインがフロントコートのスコアラーズテーブルと反対側のスローインラインから行われる場合、ショットクロックは以下のようにリセットされる：
- ゲームクロックが止められたときにショットクロックが 14 秒以上であった場合、ショットクロックは 14 秒にリセットされる。
- ゲームクロックが止められたときにショットクロックが 13 秒以下であった場合、ショットクロックはリセットされず、止められたときに残っていた秒数から継続される。

※競技規則が定義するように、スローインがバックコートで行われる場合は、ショットクロックは 24 秒にリセットされるか、止められたときに残っていた秒数から継続される。

【解釈】 29-2-2

a) チーム A のフロントコートで A1 がトラベリングを宣せられた。新たに与えられるボールは、チーム B のバックコートからのスローインとなるため、ショットクロックは 24 秒にリセットされる。

b) チーム A のバックコートで A2 が最後に触れたボールがアウトオブバウンズになった。新たに与えられるボールは、チーム B のフロントコートからチーム B のスローインになるため、ショットクロックは 14 秒にリセットされる。

c) ゲーム最後の 2 分間の時間帯で、バックコートでボールをコントロールしているチーム A がタイムアウトを請求し、その時ショットクロックは 10 秒を表示していた。チーム A はボールをフロントコートからスローインすることができるが、ショットクロックは 10 秒から継続となる。

【解釈】 29-2-3

第 4 クォーター、各オーバータイムでゲームクロックが 2:00 あるいはそれ以下を表示しているときに、バックコートからボールの権利を得ることになっているチームにタイムアウトが認められた場合、ヘッドコーチはそのタイムアウト終了後、速やかにスローインする位置をはっきりと審判にわかるように指差し、大きな声と手で「フロントコート」か「バックコート」かを伝えなくてはいけない。その後、審判は相手チームに対して大きな声と、手で「フロントコート」か「バックコート」か指をさして伝える。なお、一度ヘッドコーチが指定したスローインの位置は変えることはできない。続けてタイムアウトが認められた場合でも、最初に認められたタイムアウトの後にスローインの位置を指定し、その後変更することはできない。また、ヘッドコーチがスローインする位置を速やかに審判に伝えない、もしくは意図的に非協力的な行為と審判が判断した場合には警告を与え、同様の行為が繰り返される場合にはテクニカルファウルの対象とする。

6．第 35 条 ダブルファウル

【変更の理由】 両チームの 2 人のプレーヤーがほとんど同時に、互いにパーソナルファウルをした状況でのファウルの原則を単純にするため。

【新ルール】 第 35 条 ダブルファウル

35-1 定義

35-1-1 ダブルファウルとは、両チームの 2 人のプレーヤーがほとんど同時に、互いにパーソナルファウルをした場合をいう。

35-1-2 2 つのファウルがダブルファウルであるとみなすためには、以下の条件が求められる：

- 両方のファウルが、プレーヤーのファウルであること。
- 両方のファウルが、体の触れあいを伴うファウルであること。
- 両方のファウルが、対戦プレーヤー間で起きること。
- 両方のファウルの罰則が等しいこと。

【解釈 1 】 A1 にパーソナルファウル、B2 にアンスポーツマンライクファウルがほとんど同時に宣せられた場合、旧ルールではダブルファウルとしていたが、新ルールでは罰則が等しくないためダブルファウルとはせず、A1 と B2 にそれぞれの罰則を処置することとなった。

【解釈 2】 チーム A のチームファウルが 2 つ、チーム B のチームファウルが 3 つのとき、A1 と B 1 がほとんど同時にパーソナルファウルを宣せられた。両方のファウルの罰則が等しいためダブルファウルとなる。ゲームはチーム A のスローインで再開される。

【解釈 3】 チーム A のチームファウルが 2 つ、チーム B のチームファウルが 5 つのとき、A1 と B 1 がほとんど同時にパーソナルファウルを宣せられた。旧ルールではダブルファウルとしていたが、チーム B のファウルにはチームファウルの罰則によるフリースローが伴い、チーム A のファウルではフリースローが伴わないため両方のファウルの罰則が等しくない。そのためダブルファウルとはしない。審判はどちらのファウルが先に起きたか事象の前後を決定し、それぞれの罰則を起きた事象の順番に沿って適用しゲームを再開する。A1 のファウルが先に起きたと判断した場合、チーム B のスローインはキャンセルされ、A1 のフリースロー 2 本からゲームは再開される。B1 のファウルが先に起きたと判断した場合、A1 に 2 本のフリースローが与えられ、チーム B のスローインからゲームは再開される。

【解釈 4】 チーム A とチーム B のチームファウルが共に 5 つのとき、ボールのないところでスクリーナーの A1 とディフェンスをしていた B 1 がほとんど同時にパーソナルファウルを宣せられた。旧ルールではダブルファウルとしていたが、チーム B のファウルにはチームファウルの罰則によるフリースローが伴い、チーム A のファウルではフリースローが伴わないため両方のファウルの罰則が等しくない。そのためダブルファウルとはしない。審判はどちらのファウルが先に起きたか事象の前後を決定し、それぞれの罰則を起きた事象の順番に沿って適用しゲームを再開する。A1 のファウルが先に起きたと判断した場合、チーム B のスローインはキャンセルされ、A1 のフリースロー 2 本からゲームは再開される。B1 のファウルが先に起きたと判断した場合、A1 に 2 本のフリースローが与えられ、チーム B のスローインからゲームは再開される。

【解釈 5】 チーム A とチーム B のチームファウルが共に 5 つのとき、A1 が放ったボールが空中にある間に、リバウンドの A2 と B2 がほとんど同時にパーソナルファウルを宣せられた。両方のファウルの罰則が等しいためダブルファウルとなる。ゲームはオルタネイティングポゼッションのスローインで再開される。

【解釈 6】 ショットの動作中の A1 に B1 がコンタクトをおこしファウルが宣せられた。A1 のショットは成功した。A1 が B1 に威嚇行為があったため、A1 にテクニカルファウルが宣せられた。得点は認められ、両方のファウルの罰則が等しいため相殺され、チーム B のスローインからゲームは再開される。

7．第 36 条 テクニカルファウル

【変更の理由】 テクニカルファウルが宣せられた後の二重の罰則を避けるとともに、ボールの有無でのバランスを確保するため。

【新ルール】 36-4-1 チームベンチに座ることが許可されたすべての関係者がベンチパーソネルの対象となる。

【解釈】 ルール上で想定がない関係者も、リーグや大会規定などに沿ってベンチに座ることが認められている場合、それらの関係者はすべてルール適用の対象となる。ゲーム中にそれらの関係者にテクニカルが宣せられた場合、ベンチテクニカルとしてコーチに記録され、フリースロー1 本が相手チームに与えられる。その場合のテクニカルはチームファウルには数えない。

【新ルール】 36-3 テクニカルファウルが宣せられた場合、1 本のフリースローのみ速やかに与えられる。テクニカルファウルによるフリースローのあと、テクニカルファウルが宣せられたときにボールのコントロールを得ていたか、与えられることになっていたチームによって、テクニカルが宣せられたときの状態からゲームは再開される。

【解釈 1】 テクニカルファウルによって与えられるフリースローは「挟み込み」とし、テクニカルファウルのフリースローが他の罰則よりも前に与えられる。A 1 がドリブルをしているときにテクニカルファウルを宣せられた場合、まずフリースロー 1 本がチーム B に与えられ、テクニカルファウルが宣せられたときに A1 がボールを持っていた一番近い場所からチーム A のスローインでゲームは再開される。ボールをコントロールしていたチームのテクニカルファウルであるためショットクロックは継続する。

ディフェンス側にテクニカルファウルが宣せられた場合、フリースローが行われたあとのショットクロックは、ゲームの再開がバックコートからのスローインであれば 24 秒、フロントコートからのスローインであれば継続、もしくは 13 秒以下の場合は 14 秒にショットクロックはリセットされる。
オフェンス側にテクニカルファウルが宣せられた場合、フリースローが行われたあとのショットクロックは継続される。ただし、第 4 クォーター、各オーバータイムでゲームクロックが 2:00 あるいはそれ以下を表示しているときにオフェンス側にテクニカルファウルが宣せられ、そのチームがタイムアウトを請求した場合、ゲームの再開がバックコートからのスローインであれば継続、フロントコートからのスローインでショットクロックの残りが 13 秒以下であれば継続、14 秒以上であれば 14 秒にリセットされる。

【解釈 2】 与えられた 2 本（もしくは 3 本）のフリースローの間にテクニカルが宣せられた場合、次にボールがデッドで時計が止まっている状況まで、どちらのチームにもタイムアウトや交代は認められない。ショットの動作中の A1 に B1 がコンタクトをおこし、ファウルを宣せられた。A1 に 2 本のフリースローが与えられ、1 本目のフリースローのあと、A2 にテクニカルファウルが宣せられた。この場合、テクニカルファウルのフリースロー1 本をチーム B に与え、そのあと A1 の 2 本目のフリースローでゲームは再開される。A1 の 2 本目のフリースローが成功した場合にはタイムアウトや交代は認められる。

8．第 39 条 ファイティング

【変更の理由】 コート上での暴力行為の最中にチームベンチエリアを離れたことでチームメンバーに与えられる罰則を異なったものにするため。（積極的に暴力行為に関わったかどうかと区別する）

【新ルール】 チームベンチエリアを離れたあと、積極的に暴力行為に関わったあらゆる交代要員、コーチ、アシスタントコーチ、5 個のファウルを宣せられたチームメンバーやチーム関係者はそれぞれの条文によって失格・退場となる。（DQ ファウル・・・ディスクォリファイングファウル）

【解釈 1】 コート上にいる A1 と B1 で暴力行為が始まった。ベンチにいた A8 がコートに入ってきて B1 の顔面を殴った。A1 と B1 にはディスクォリファイングファウル（D）が記録され、その罰則は相殺される。A8 がチームベンチエリアを離れてコートに入ったことでファイティングの規定が適用され失格退場となり、チーム A のコーチにテクニカルファウル（B）が記録される。また積極的に暴力行為に加わったことから、A8 にはさらにディスクォリファイングファウル（D）が記録される。チーム B に合計 4 本のフリースローが与えられ、チーム B のフロントコートのスコアラーズテーブルの反対側のスローインラインからのスローインによりゲームは再開される。

【解釈 2】 コート上にいる A1 と B1 で暴力行為が始まった。ベンチにいた A6 と B6 がコートに入ってきたが暴力行為には加わらなかった。A7 はコートに入ってきて B1 の顔面を殴った。A1 と B1 にはディスクォリファイングファウル（D）が記録され、その罰則は相殺される。A6、A7 と B6 がチームベンチエリアを離れてコートに入ったことでファイティングの規定が適用され失格退場となり、それぞれのチームのコーチにテクニカルファウル（B）を 1 個ずつ記録し、その罰則は相殺される。また積極的に暴力行為に加わったことから、A7 にはさらにディスクォリファイングファウル（D）が記録されチーム B に 2 本のフリースローが与えられ、チーム B のフロントコートのスコアラーズテーブルの反対側のスローインラインからのスローインによりゲームは再開される。

９．第 46 条 クルーチーフ：任務と権限

【変更の理由】 インスタント・リプレー・システム（IRS）でレビューすることができるシチュエーションを 3 つ追加

【新ルール】 46-12 ゲームの最後の 2 分間で（2:00）：

- ゴールテンディングまたはインタフェアレンスのバイオレーションが正しく宣せられたかどうか確認ができる。

ゲーム中どのタイミングでも：

- 成功しなかったフィールドゴールのシューターに対して起こされたファウルが宣せられたあと、与えられるフリースローの本数が 2 本あるいは 3 本かを確認できる。
- 宣せられたパーソナルファウル、アンスポーツマンライクファウル、ディスクォリファイングファウルの判定がそれぞれのクライテリア（基準）に沿っているか確認し、必要であれば判定をアップグレードもしくはダウングレードするかどうか、またはテクニカルファウルと記録することが適切かどうかを確認できる。

【解釈 1】 ゲームの最後の 2 分間で、審判がゴールテンディングまたはインタフェアレンスを宣した時、その判定を確認するため IRS を用いる事ができるようになった。そしてレビュー後、ゴールテンディングまたはインタフェアレンスの判断が間違っていて正当なブロックショット等であったと明らかに確認できた場合、審判はジャンプボールシチュエーションとしてゲームを再開する。ただし、ゴールテンディングやインタフェアレンスについて、IRS を活用しても明らかな確証を確認できなかった場合は、コート上で下された判定によってゲームを再開する。

【解釈 2】 スリーポイントライン近くでショットの動作中の A2 に対して B1 がコンタクトを起こし、ファウルが宣せられた。フィールドゴールは成功しなかったが、クルーチーフは与えられるべきフリースローの本数の確認が必要と判断したため、IRS でフリースローの数を確認することができる。

【解釈 3】 ショットの動作中の A1 に対して B2 がハードコンタクトと判断し B2 のアンスポーツマンライクファウルを宣した。このプレーに対してクルーチーフが IRS で確認が必要と判断し、パーソナルファウル、アンスポーツマンライクファウル、ディスクォリファイングファウルの確認をおこない、アップグレード、ダウングレードをする事が可能となった。この確認中に A1 が B2 へのファウル後、A3 が B2 を後ろから突き飛ばしている姿が映像に映っていた。IRS の大前提として（ファイティングを除いて）判定を下したものに関して確認するものであるため、A3 に関してはテクニカルファウル等の判定を記録することはできない。ただし、審判が A3 のコンタクトに関して判定をしていた場合は、IRS によりアップグレード、もしくはダウングレードの判断を確認する事ができる。また、IRS によって確認した結果、コート上で判断したファウルの事実がなかったとしても、コート上での判定は取り消されない。

１０．第 50 条 ショットクロックオペレーター：任務

【変更の理由】 ボールがリングとバックボードの間に挟まったとき、ボールはリングに当たっているとみなされる。他の類似の条文の中に入れるため。

【新ルール】 複数のフリースローの間やボールの権利がファウルの罰則の一部に含まれる場合を除いて、ライブのボールがリングとバスケットの間に挟まったとき、ジャンプボールシチュエーションとなり、オルタネイティングポゼッションのスローインが与えられる。ボールはリングに当たっているため、ショットクロックは 14 秒または 24 秒にリセットされる。

【解釈】 ショットクロックが残り 15 秒を示している時点で、A4 の放ったショットのボールがリングとバックボードの間に挟まった。審判はジャンプボールシチュエーションを宣した。オルタネイティングポゼッションアローはチーム A を示していたため、ショットクロックを 14 秒にリセットしてゲームは再開される。

１１．アンスポーツマンライクファウルあるいはディスクォリファイングファウルの後のスローイン

【変更の理由】 ゲームのスピードを上げるとともに、攻守の切り替えを増やし、得点の可能性を増やすため。センターラインからのスローインの後の複雑なシチュエーションを取り除くため。

【新ルール】 ・アンスポーツマンライクファウルあるいはディスクォリファイングファウルの罰則の一部のすべてのスローインは、スローインを与えられるチームのフロントコートのスローインラインから行われる。

・ファイティングが起こった後でゲームを再開するためのすべてのスローインは、スローインを与えられるチームのフロントコートのスローインラインから行われる。

・すべてのケースでショットクロックは 14 秒から再開する。

※第 1 クォーター以外の各クォーターや各オーバータイムの開始のためのスローインは、違反の罰則の一部ではないため、引き続きセンターラインから行われる。

【解釈】 第 4 クォーターでゲームクロックに 1:15 が表示された時点で、スローインのボールが A1 の手を離れる前に B1 がコンタクトを起こし、審判はアンスポーツマンライクファウルを宣した。A1 に 2 本のフリースローが与えられ、ゲームはチーム A のフロントコートのスコアラーズテーブルと反対側のスローインラインからのスローインでショットクロックは 14 秒が表示される。

１２．B - スコアシート

【変更の理由】 コーチに対するテクニカルファウルの罰則のフリースローの本数が 1 本あるいは 2 本かを明らかにするため。

【新ルール】 38-3-4 与えられるフリースローの数は以下のとおりである：

・ファイティングの状況でチームベンチを離れることを含め、ファウルがアシスタントコーチ、交代要員、5 個のファウルを宣せられたチームメンバー、チーム関係者の失格・退場であった場合、このファウルはテクニカルファウルとしてコーチに記録される：この場合、2 本のフリースローが与えられる。

【解釈】 コート上で暴力行為が起こったとき、交代要員の A6 がチームベンチエリアを離れて、コートの中に入った。審判は A6 をファイティングのルールに則り失格・退場とし、コーチ A のテクニカルファウルとした。このテクニカルファウルはコーチ A に「B」として記録され、チーム B に 2 本の
フリースローが与えられる。

１３．D - チームの順位決定方法

【変更の理由】 ワールドカップ予選のための新たな大会フォーマットに適応させるため。

【新ルール】 チャプターD.3 は、1 チームが大会で 2 回没収となり、グループ内のすべてのチームが同じ数のゲームを行う場合の詳細な例である。→詳細は競技運営より

１４．バスケットボール用具・器具／ショットクロックの機器

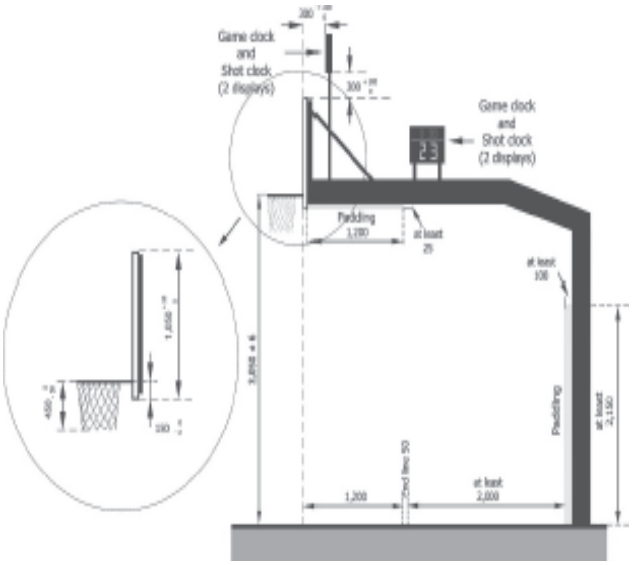
【変更の理由】 ゲーム中の誰もが見ることができるように、両面を表示面とする２つのユニットでショットクロックを表示するため。

【新ルール】 観客を含めた誰もがゲーム中にショットクロックをはっきりと見ることができるように、レベル 1 のゲームでは、ユニット毎に 3 つまたは 4 つの表示面を有するか、両面を表示面とする 2 つのユニット（レベル 2、レベル 3 に推奨）を用いる。

・クォーターの終了の合図が鳴った時のみ外縁が赤く光るライトを備え付けることができる。

・ショットクロックの合図が鳴った時に外縁上部が黄色く光るライトを赤く光るライトのすぐ下に備え付けることができる。

→詳細は競技運営より



補足

2018FIBA 新ルール変更点サマリー0621（変更点の速報版）

2018FIBA 新ルール変更点 20180905（解釈の追加）

2018FIBA 新ルール変更点 20180921（解釈の追加変更）

３:スローイン【解釈 1.2】、５:24 秒【解釈】29-2-4、６:ダブルファウル【解釈 2.4.5.6】、７:テクニカルファウル【解釈 2】

2018FIBA 新ルール変更点 20190206（解釈の一部追加変更）

JBA プレーコーリング・ガイドライン
（20190401）

第１章　ファウル
１．ファウルとは
２．イリーガルな手・腕・肘の整理（HAND-CHECKING 含む）
３．スクリーンプレー
４．ブロッキング・チャージング
５．プロテクトシューター
６．アンスポーツマンライクファウル（UF）
７．テクニカルファウル（TF）
８．ディスクオリファイングファウル（DQ）
９．ダブルファウル
10．ファイティング
11．フェイク（FAKE A FOUL）

第２章　バイオレーション
１．トラベリング
２．ボールの扱い方

第３章　その他
１．IRS（インスタント・リプレー・システム）
２．不注意などでゲームを止めてしまった時の対応

参考資料
１．トラベリングについて（FIBA 新ルール 2017/07/15 対応）
２．フラストレーションを抱えた（冷静な心理状態でない）選手・関係者に対する接し方について
３．抗議の取り扱いについて（2019 競技規則改正）
４．ゲーム中のコーチによるプレーヤーへの暴言、暴力的行為に対する対応方針（ガイドライン）

第１章 ファウル

１．ファウルとは

（１）基本的考え方

①ファウルには、**触れ合いに対するファウル（NF/UF）と振る舞いに対するファウル（TF）、そして特に悪質でスポーツマンシップに反する行為（DQ：ファイティング含む）がある。**

②NF/UF は５個で失格、そして UF/TF は UF２個、TF2 個、UF/TF 各１個によって失格退場となるが、審判は「触れ合いに対するファウル」と同様に「振る舞いに対するファウル」にも毅然と判定する必要がある。

③審判は、JBA が推進する**「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」**を実践するため、コート上での**イリーガルな「触れ合い」および「振る舞い」に対するファウル**を、競技規則およびプレーコーリング・ガイドラインに則り適切に判定することが求められている。

（２）触れ合いに対するファウル

審判員は、触れ合いに対するファウルの成立基準として、以下の３原則がある。

ファウルの３原則　**①触れ合いの事実**

②触れ合いの責任　リーガルガーディングポジション、シリンダー、etc.

③影響　オフェンスの R（リズム）S（スピード）B（バランス）Q（クイックネス）に影響のある

触れ合いをファウルとして取り上げる。

審判は、よりゲームの質を高めるためにマージナルなプレー（ファウルの域に達していない度合いの触れ合い）の見極めも求められている。審判は、**マージナル or イリーガル or ノーファウル**の判断について常に検証を重ねる必要がある。

（３）振る舞いに対するファウル

振る舞い（コンタクトのあるタウンティングを含む）に対するファウルについて、審判は感情的になることなく、競技規則およびプレーコーリング・ガイドラインに則りシンプルに判定する必要がある。テクニカルファウルにおいても、他のパーソナルファウル等と比べて特別に扱うということはなく、リスペクトフォーザゲームの観点も含め、起きた振る舞いに対して判定をする。

２．イリーガルな手・腕・肘の整理（HAND-CHECKING 含む）

（１）基本的考え方

①オフェンス・ディフェンスのどちらかに、不当に有利・不利が生じないようにする必要があり、プレーヤーの FOM（Freedom of Movement：オフェンス・ディフェンス共にコート上を自由に動く権利）を確保し、クリーンでスムーズなゲームを提供する

②イリーガルな手・腕・肘は、その後の試合（時間帯）でラフなプレーを引き起こす原因となるため整理する必要がある

③イリーガルな手・腕・肘は、ディフェンスだけでなくオフェンスに対しても整理をする必要がある

④イリーガルな手・腕・肘は、ディフェンスとオフェンスのリアクションではなくアクションに対して判定する必要がある。

（２）ディフェンスのイリーガルな手・腕・肘（HAND-CHECKING 含む）

①ボールを持っているプレーヤーに、両手を使う**（ハンドチェックの適用）**

②ボールを持っているプレーヤーに、片手でも肘が伸びた状態で触れ続ける**（ハンドチェックの適用）**

③ボールを持っているプレーヤーに、触れ続ける**（ハンドチェックの適用）**

④ボールを持っているプレーヤーに、短い時間であるが何回も触れる**（ハンドチェックの適用）**

⑤ポストディフェンスで、シリンダーを超えたアームバー

⑥オフェンスを手・腕・肘でロック（Lock）し止める

⑦ピック＆ロール等のスクリーンプレーで、スクリーナーに対してすり抜けるために手・腕・肘を使う

⑧ピック＆ロール等のスクリーンプレーで、スクリーナーやユーザーの次の動きを妨げるため手・腕・肘を使う

（3）オフェンスのイリーガルな手・腕・肘

①ボールを持ったプレーヤーがディフェンスを抜くために手・腕・肘を使って相手をロック（Lock）し止める
②オフボールのオフェンス（ポストプレー含む）が、ディフェンスの身体に対し腕を巻いて抑える
③オフボールのオフェンス（ポストプレー含む）が、手・腕・肘を使ってディフェンスの腕を巻く
④オフボールのオフェンス（ポストプレー含む）が、スペースを作りボールをもらうためにシリンダーを越えた手・腕・肘でディフェンスをロック（Lock）して止める

3．スクリーンプレー

（1）リーガルスクリーン

リーガルスクリーンとは、**1）スクリーナーが止まっていて**、**2）両足が床についた状態で**、**3）シリンダー内**で身体の触れ合いが起こるプレーのことである

（2）イリーガルスクリーン

①相手の動きにあわせて、動いてスクリーンをかける（Moving Pick）
②止まっている相手のうしろ（視野の外）でスクリーンの位置を占めスクリーンをかける
③動いている相手チームのプレーヤーの進路上に、相手が止まったり方向を変えたりして触れ合いを避けられるだけの距離をおかずにスクリーンの位置を占めスクリーンをかける
④シリンダーを越えた手・腕・肘、そして足・お尻等、身体の一部を不当に使ってスクリーンをかける

4．ブロッキング・チャージング

（1）リーガルガーディングポジション

①ディフェンスプレーヤーが相手チームのプレーヤーに対して、**トルソー**（向かい合い、両足を普通に広げてフロアにつけている）を占めている状態
②リーガルガーディングポジションには、真上の空間の権利（**シリンダー**）も含まれる

（2）ブロッキング

①ボールを持っているかいないかに関わらず、相手チームのプレーヤーの進行（FOM）を妨げるイリーガルな身体の触れ合い
②ボールを持っている（コントロール、ドリブル）相手チームのプレーヤー対して、先にリーガルガーディングポジションを占めることができない状態で身体の触れ合いが起きた場合（ただし、RSBQ を考慮する必要がある）
③ボールを持っている相手チームのプレーヤーが、レイアップショット等でジャンプをするために最後のステップをした後に相手チームのプレーヤーが着地する場所で触れ合いが起きた場合
④**ドライブ等でインパクトが大きい触れ合いが起きた場合、オフェンスに明らかな責任がない時はディフェンスのファウルである**

（3）チャージング

ボールを持っていてもいなくても、無理に進行して相手チームのプレーヤーのトルソーに突き当ったり、押しのけたりする不当な身体の触れ合い

（4）2 人の審判が同じ触れ合いに関してそれぞれ別の角度からブロッキングとチャージングを同時に宣したプレー

事象の前後を決定することができないことから、クルー間でコミュニケーションをとり、「オフェンスに明らかな責任がない時はディフェンスのファウル」とする。

５．プロテクトシューター

①オフェンス側プレーヤーがジャンプショットのため正当にジャンプをした場合、着地場所を確保する権利がある。（オフェンス側プレーヤーが着地する時、ディフェンス側プレーヤーの足等が触れ合いを起こすことは怪我の危険性もあるファウルである）
関連ケース（キックアウト）

②オフェンス側プレーヤーがショットをする時、シリンダーを越えて必要以上に足や手などを広げ、リーガルなディフェンスに触れ合いを起こした場合はシューターのファウルとして判定する（ショット前はオフェンスファウル、ショット後はルーズボールのファウルとしてプッシング）

③オフェンス側プレーヤーがショットをした後、怪我をすることを避けるために必要に応じて倒れることはフェイクではない。

６．アンスポーツマンライクファウル（UF）

アンスポーツマンライクファウルについては、下記（１）～（５）のクライテリアに該当した場合、試合中全ての時間帯（試合の終盤また得点差に関係になく）で適用し、アクション（起きた現象）のみで判断する。

（１）正当なバスケットボールのプレーと認められない、かつ、ボールに対するプレーでないと審判が判断したプレー

①ユニフォームを掴んで引っ張る行為は UF とする

②肘や足を過度に使うコンタクトは、相手プレーヤーに重大な負傷に繋がりかねない危険な行為であるため UF。
特に、首から上、顔面・頭へ肘を使ったコンタクトは非常に危険であるため DQ も判断基準とする

③肘を激しく振り回した場合は、ノーコンタクトでも TF の対象となる

（２）プレーヤーがボールにプレーしようと正当に努力していたとしても、過度に激しい触れ合い（エクセシブコンタクト、ハードコンタクト）と審判が判断したプレー

①ボールにプレーしている場合でも過度な接触とみなされたファウル

②手・腕などによる首から上へのファウルは、その度合いと選手の身を守るため危険なファウルと判断した場合、故意でなくても UF とする

③空中にいるオフェンスプレーヤーに対するディフェンスの危険なファウル

④笛が鳴ったあとや、ファウルの判定があったにも関わらず相手プレーヤーに続けてハードなコンタクトをおこすこと

⑤オフェンスのパンプ・フェイクなどで空中に飛んでしまった結果、いずれにせよファウルになると確信したあとで必要以上に相手のプレーヤーを掴んだり、腕を振り下ろしたり、激しく叩いたりすること

（３）オフェンスが進行する中で、その進行を妨げることを目的としたディフェンスのプレーヤーによる必要のない触れ合いと審判が判断したプレー

※このルールはオフェンスのプレーヤーがショットの動作に入るまで適用される

①ディフェンスしようとする努力をせず、ボールに直接、正当にプレーしていないケース

②正当なバスケットボールのプレーと認められない不要な接触

③リーガルガーディングポジションから外れ、ボールに対してではないファウルをすること

④リーガルガーディングポジションから正当にディフェンスをした結果のイリーガルな触れ合いはノーマルファウル

⑤オフェンスがボールを進めるのを止めることだけを目的とした不要なファウル

（４）速攻に出ているオフェンスのプレーヤーとそのチームが攻めるバスケットの間にディフェンスのプレーヤーが全くいない状況で、その速攻を止めるためにディフェンスのプレーヤーが、そのオフェンスのプレーヤーの後方もしくは横から起こす触れ合いと審判が判断したプレー（ラストプレーヤーシチュエーション）

※このルールはオフェンスのプレーヤーがショットの動作に入るまで適用される

①パスミス・パスカット等があってもボールコントロールが変わっていない場合のファウルは NF。ただしボールにプレーせず正当なバスケットボールのプレーでないと審判が判断した場合は UF とする

②速攻でのレイアップ等で、AOS に対してのファウルは NF とする

③ラストのディフェンスがオフェンスの前にいる状況で、抜かれたあと、後ろからファウルをした場合は UF とする

（５）第４クォーターもしくは各延長（オーバータイム）残り２分の間で、ボールをアウトオブバウンズからスローインをするときに、まだボールが審判もしくはスローインをするプレーヤーの手にあるときに、コート上のディフェンスのプレーヤーが相手に起こした触れ合いと審判が判断したプレー（ラスト２ミニッツシチュエーション：L2M）

①オフェンスプレーヤーには適用されない

７．テクニカルファウル（TF）

ゲームは両チームのプレーヤー、チームベンチパーソネル、審判、テーブルオフィシャルズなどすべての人たちの協力によって成立するものであることを理解することが重要である。また、**ゲームを尊重する精神（Respect for the game）**に則り、状況と内容を判断し、審判は注意・警告を与えることなくただちにテクニカルファウルを宣してもよい。テクニカルファウルによって与えられるフリースローは１本が挟み込みで行われ、ゲームはテクニカルファウルが宣せられた状況から再開される（新ルール）

（１）ベンチおよびプレーヤーが審判、テーブルオフィシャルズ、相手チーム、自チーム、観客に対して失礼な態度で接すること（ゲームを尊重する精神（Respect for the game）に反する振る舞い）

・威嚇や挑発行為
・継続的、もしくは大きなジェスチャーなどでゲームに対して異論を表現すること
・不適切な表現や言語
・ベンチがゲームの進行や運営に支障をもたらすこと（ベンチエリアで立ち続ける等）
・ボールや身に着けているものなどを強く叩きつけたり、投げたりすること
・用具・器具を破損するおそれのある行為（リング支柱を叩いたり、看板を強く蹴るなど）
・審判に対して、異論を唱えるためにボール等を投げつける行為
・観客に対して、不作法にふるまったり、挑発するような言動をとること
・コーチが選手（自チーム・他チーム含む）に対して、人権・人格、身体的特徴、自尊心等を否定する暴言・暴力的行為
・ゲームの手続き上の規則、運営・管理に関して違反すること

（２）ゲームの進行を遅らせる行為（ディレイオブゲーム）

・バスケットを通過したボールに故意に触れること
・笛が鳴った後などで審判にボールを返さないこと
・ボールがすばやくスローインされることを妨げること（１度目はバイオレーション、２度目以降もしくはゲームの残り２分では TF）

８．ディスクオリファイングファウル（DQ）

プレーヤーやベンチパーソネルによって行われる、特に悪質でスポーツマンシップに反する行為に対するファウル

（1）アンスポーツマンライクファウルから DQ へのアップグレード対象

※C１（正当なバスケットプレーと認められない：肘を使ったプレー）および C2（エクセシブコンタクト、ハードコンタクト）が対象

①通常のバスケットボールのプレーから逸脱して**暴力行為**と判断できるもの、または**大きな怪我につながる危険な接触**に関してはDQ の対象とする

②首から上、顔面・頭へ肘を使った過度に危険なコンタクト

③空中にいるオフェンスプレーヤーに対して過度に危険なコンタクト

※空中にいるプレーヤーに対してディフェンスせずに、激しくコンタクトすることを目的におこすファウルなど

（2）著しくゲームを尊重するべきことに反する行為

①審判に対して、**異論を唱えるために**身体接触を起こすことや、ボール等を強く投げつける行為は DQ の対象とする

②観客および観客席に対して、直接ボールや身に着けているもの、その他のものを力強く投げ込む行為などは DQ の対象とする

③その他、著しくスポーツマンシップの精神から逸脱している行為と判断したもの

④自チームに対しての暴力行為

９．ダブルファウル

（1）ダブルファウルとは、

両チームの 2 人のプレーヤーがほとんど同時に、互いにパーソナルファウルをした場合であり、以下の条件が求められる。

①両方のファウルが、プレーヤーのファウルであること。

②両方のファウルが、体の触れあいを伴うファウルであること。

③両方のファウルが、対戦プレーヤー間で起きること。

④両方のファウルの**罰則が等しい**こと。（NF と UF のダブルファウルはない）

（2）連続したファウルに対する対応

NF 直後等に UF の C1C2 に該当する行為（過度に肘を使う、ユニフォームを掴み引っ張る等）があった場合は、両方のファウルを判定し記録する。

１０．ファイティング

コート上やコートの周囲で暴力行為が起こった時や起こりそうな時にチームベンチエリアから出たチームベンチパーソネルに適用される

①暴力行為が起こった時や起こりそうな時にベンチエリアから飛び出してコートに入った場合など、その対象者にはディスクオリファイングファウルが宣せられ、失格・退場となる

②コーチとアシスタントコーチだけは審判に協力して争いと止める目的であればコートに入っても良い。

③ファイティングによりディスクオリファイングファウルはチームファウルに数えない

④IRS が稼働可能な場合、クルーチーフを中心に、何と誰を確認するべきなのかをクルー複数名で映像にて確認する

１１．フェイク（FAKE A FOUL）

（1）基本的な考え方

オフェンス・ディフェンスともにファウルをされたようにみせかけ、ゲームに関係する人達を欺くプレーをなくす

（2）フェイクに対する対応

①フェイクが起きた責任エリアの審判がジェスチャー（片方の手のひらを 2 回招くように）を明確に示す（クルーで共有）

②ボールデッドで時計が止まった時に、該当選手及びベンチに対して、その近くにいる審判が速やかに明確に伝える

③フェイクが起きた後、ボールデッドで時計が止まる前に、同じチームの選手が再びフェイクをした場合は、2 回目のフェイクという理解

で TF を適用する

④「ノーコンタクトのフェイク」は Excessive Fake（あまりに過度なフェイク）として、ただちに、TF を宣する（一発）。またそれに準ずる過度なフェイクもダイレクトテクニカルの適用対象とする

⑤ディフェンスファウル（または、オフェンスファウル）とフェイクが同時におきたと判断できる場合、ファウルを優先して判定する

⑥ディフェンスファウル及びオフェンスファウルを宣した場合、フェイクは適用されない

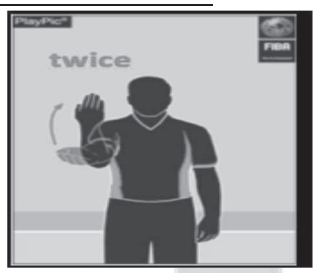
⑦オフェンス選手も、ファウルを受けたように見せるため倒れるなどのプレーはフェイクとする

（３）テクニカル時の対応

①選手に対して　１）手を上げ、時計を止める　　２）フェイクのジェスチャーを示す　３）テクニカルを示す

②TO に対して　１）チーム及び選手の番号を示す　２）フェイクのジェスチャーを示す　３）テクニカルを示す

フェイクのジェスチャー



Fake a foul signal　フェイク・ア・ファウル・シグナル

New “Raise-the-lower-arm” – Signal twice (Starting from the top)

（新）レイズ・ザ・ローアー・アーム

図のように腕で招くように２回シグナルをすることで、フェイクが起きたことを示す

フェイクが起きたことを確認

フェイクのジェスチャーを行う（２回）

第２章　バイオレーション

１．トラベリング

（１）止まった状態でボールをコントロールしている場合

①ピボットフット（軸足）が確立されたあと、明らかにピボットフットを踏みかえること（**軸足の踏みかえ**）

②明らかにピボットフットがずれること（**軸足のずれ**）

③ドリブルを始めるとき、明らかにピボットフットが床から離れた後にボールをリリースすること（**突き出しの遅れ**）

（２）動きながら、足がフロアについた状態で、ボールをコントロールした場合

④動きながら、足がフロアについた状態でボールをコントロールした場合、フロアについている足は０歩目とし、その後２歩までステップを踏むことができる。その場合、１歩目がピボットフットとなる。

⑤ ④の場合、ドリブルを始めるときは２歩目の足をフロアにつける前にボールをリリースする必要がある。

⑥ドリブルが終わる時も、④のステップが適用される。

⑦ ④⑥の場合、連続して同じ足（右→右、左→左、両足→両足）を使うことはできない。

※両足とは、ほぼ同時にフロアに足がついた状態。

（３）明らかに空中でボールをコントロールした場合

⑧次にフロアについた足が、ピボットフットとなる。

（4）その他のケース

⑨プレーヤーがボールを持ったままフロアに倒れたり、床に倒れた勢いでボールを持ったまま床をすべること、あるいは横たわったり座ったりしているプレーヤーがボールを持つことはバイオレーションではないが、その後ディフェンスを避けるために転がったり、立ち上がることはトラベリングである。

⑩ボールを持って止まっているプレーヤーのピボットフットが決まった後に、さらに明らかにジャンプしどちらかの足がフロアについてからショットまたはパスをすることはトラベリングである。

２．ボールの扱い方

（１）ボールは手で扱わなければならない。

①ボールをこぶしで叩いてはならない。

②故意に足または脚（大腿部も含む）でボールを蹴ったり止めたりしてはならない。また、ボールを足で挟んでパスに見せかけることもバイオレーションである。

③ボールが偶然に足やこぶしなどに当たったり触れたりすることはバイオレーションではない。

第３章 その他

１．IRS（インスタント・リプレー・システム）

各種大会主催者によって IRS が設置され稼動が可能な状況において、以下の場合、審判は該当するケースを確認するため IRS を使用する事が認められている。

【IRS を使用する場合の手順】

①審判は、判定（３or２、アウトオブバウンズのディレクション、NForUF 等）を明確にコート上で示す。

②審判（CC 以外も含む）は、上記①の判定において、**確証がない場合、かつ IRS 適用のケースの場合、**IRS を使用する判断の権限を持つ。その場合、当該審判は IRS のジェスチャーを明確に示しクルーに伝える。

③上記②において、ボールがデッドになったとき、IRS 使用が必要と判断した当該審判はクルーチーフにその旨を明確に伝える。

④クルーチーフはその判断を受け入れ、正式に IRS のジェスチャーを示してから映像の確認を行う。その場合クルーチーフは必要に応じて当該審判とともに映像を確認することができる。

⑤IRS の確認後、クルーチーフは決定した判断を観客・チーム・選手に明確に伝える。ただし、**映像により明らかな実証が確認できなかった場合、コート上で下した審判の判定を優先しゲームを再開する。**

⑥**試合中に確認できる映像は、主催者によって公式に定められた IRS 映像のみである。**

（１）各クォーターや延長（オーバータイム）の終了時

①成功したショットのボールが手から離れるのが、ゲームクロックのブザーよりも先だったかどうか

②以下の状況でゲームクロックに残す時間の確認

・シューターによるアウトオブバウンズが起きていた場合

・ショットクロックのバイオレーションが起きていた場合

・8 秒バイオレーションが起きていた場合

・クォーターまたは延長の終了よりもファウルが先に起きていた場合

（2）第４クォーターや延長の残り２：00 以下の時

①成功したショットのボールが手から離れるのが、ゲームクロックのブザーよりも先だったかを確認

②ショットがファウルよりも先だったかどうかを確認

③アウトオブバウンズのラストタッチの確認

④ゴールテンディングやインタフェアレンスが正しく判定されたかどうかの確認（新ルール）

（3）ゲーム中どのタイミングでも

①成功したショットが 2 点か 3 点かの確認

②ゲームクロックやショットクロックの誤作動が起きた時、訂正されるべき時間の確認

③正しいフリースローシューターの確認

④ファイティングが起きた時、誰がかかわっていたかの確認

⑤成功しなかったショットのシューターに対するファウルで、与えられるフリースローの本数の確認（新ルール）

⑥パーソナルファウル、アンスポーツマンライクファウル、ディスクオリファイングファウルの判定がそれぞれのクライテリア（基準）と合っているかの確認、またはテクニカルファウルとして記録することが適切かどうかの確認（新ルール）

2. 不注意などでゲームを止めてしまった時の対応

（1）ルールで規定されている事象以外で不注意や誤ってゲームを止めてしまった場合

①クルーチーフを中心にその状況での情報を把握・共有し、どちらかのチームが著しく不利な状況とならないことを考慮したうえで、最終的にクルーチーフが再開方法を決定する

②タイムアウトや交代についても、①を踏まえたうえでクルーチーフが認めるか認めないかを判断する。

付則

2016 年 8 月	JBA プレーコーリング・ガイドライン作成
2017 年 7 月 14 日	３ブロッキング・チャージング、４プロテクトシューター、６プレーヤー/コーチのテクニカルファウル、８トラベリング、９ファイティング、以上 5 項目追加
2017 年 8 月 26 日	４プロテクトシューター追加、５アンスポーツマンライクファウル改訂
2017 年 9 月 15 日	５アンスポーツマンライクファウル改訂（2017FIBA ルール変更サマリー対応）
2018 年 1 月 8 日	８トラベリング改訂（2017FIBA・2018JBA ルール対応）
2018 年 2 月 1 日	５アンスポーツマンライクファウル修正（2018JBA ルールブック対応）、８トラベリング【参考資料 1】追加
2018 年 7 月 1 日	全面改訂、1-８ディスクオリファイングファウル、3-１インスタント・リプレー・システム追加
2019 年 2 月 12 日	１ファウルとは、2-2 ボールの扱い方、3-2 不注意などでゲームを止めてしまった時の対応、その他補足修正【参考資料２.3.4】追加

【ガイドライン参考資料１】

トラベリングについて（FIBA新ルール2017/8/15対応）

【１】基本的な考え方

1	動きながらフロアに足がついた状態でボールをコントロールした場合、コントロールをした後に2歩までステップを踏んでも良い（0歩目の適用）。その場合、ステップは2歩までの原則は変わらないため、0歩目→1歩目→2歩目とし、1歩目→2歩目→3歩目とカウントはしない。※0歩目適用の場合、1歩目がピボットフットとなる。	
2	ドリブルが終わる時も、上記【1】1の考え方が適用される。	
3	上記【1】１.2の場合、明らかに空中でボールをコントロールしたあと、フロアに足をつけた場合は、そのついた足が1歩目（ピボットフット）となる。	
4	ドリブルをする場合	
	①	止まった状態からドリブルをする場合、ピボットフットがフロアから離れる前にボールをリリースしなければならない。
	②	0歩目が適用され一連の動きの中でのドリブルの場合、2歩目がフロアにつく前にボールをリリースしなければならない。ただし、１歩目のピボットフットが確立した後に止まった状態ができた場合は、上記【1】4①が適用される。
5	ショット及びパスの場合は、2歩目のステップ後にボールをリリースしてもよい。ただし、2歩目でジャンプした場合、次に足がフロアにつく前にショットおよびパスをしなければならない。	
6	同じ足（右→右、左→左、両足→両足）を連続して使うことはできない。	
7	両足とは、ほぼ同時にフロアに足がついた状態である。	

【２】リーガルな足の使い方（〇印はピボットフット）

（１）0歩目を適用しない場合（従来のステップ）

		1歩目	2歩目	備考
1	①	〇右足	左足	
	②	〇左足	右足	
2	①	両足（〇右足）	左足	1歩目が両足の場合、片足がフロアから離れた時、フロアについているもう片方の足がピボットフットとなる
	②	両足（〇左足）	右足	
3	①	〇右足	両足	2歩目後にステップはできない
	②	〇左足	両足	

（２）0歩目を適用した場合（新ルール適用によるステップ）

１．1歩目で止まった場合

		0歩目	1歩目	2歩目	備考
4	①	〇右足	左足		0歩目を1歩目（ピボットフット）とするため、左図2歩目は3歩目となる
	②	〇左足	右足		
5	①	両足（〇右足）	左足		
	②	両足（〇左足）	右足		
6	①	右足	両足（〇右足）	左足	1歩目を両足で止まった場合、2歩目が使える 右(or左)足→両足の時点で連続した同じ足ではない
	②	左足	両足（〇左足）	右足	

２．2歩目を使った場合

		0歩目	1歩目	2歩目	備考
7	①	右足	〇左足	右足	
	②	左足	〇右足	左足	
8	①	右足	〇左足	両足	2歩目の両足後はステップはできない
	②	左足	〇右足	両足	
9	①	両足	〇左足	両足	
	②	両足	〇右足	両足	
10	①	右足	両足（〇右足）	左足	右(or左)足→両足の時点で連続した同じ足ではない
	②	左足	両足（〇左足）	右足	

【ガイドライン参考資料 2】

フラストレーションを抱えた（冷静な心理状態でない）選手・関係者に対する接し方について

2018 年度、高校ブロック大会の試合中に審判員に対する暴力行為がありました。この行為は絶対にあってはならない行為であり、今後の対応については JBA として関係各組織（全国・県高体連および県協会）と緊密に連絡を取り合い協議をしているところです。しかしながら、現在も日本全国でたくさんの試合が行われています。そこで、我々審判が自分自身の身を守るため、選手や関係者が強くフラストレーションを抱えている（冷静な心理状態でない）と感じた場合の注意点について下記共有しますので、都道府県において各審判員に注意喚起をよろしくお願いします。

なお、皆様方におかれましては、試合運営上の知識のひとつとしてご確認いただき、引き続き競技規則に則ったクリーンな試合運営にご協力いただけますようお願い申し上げます。JBA 審判としては、皆様に安心して審判活動をしていただけるように、またより良い試合開催が出来るよう継続して取り組んでまいります。

【確認・注意事項】

1．試合中において、選手・ベンチの状況（精神状態等）については、常にクルー内で情報共有する。

2．コミュニケーションをとるため選手および関係者に近づく場面があるが、選手および関係者の感情・表情等には充分注意をはらう。また、常に冷静に相手の感情などを察した言動を心がける（相手の感情を刺激するような言葉や行動を避ける）。

3．フラストレーションを抱えた（冷静な心理状態でない）と思われる選手に対しては、一定の距離を保つ（手の届かない間隔を保つ）。

4．ファウル、アンスポーツマンライクファウル、テクニカルファウル等を宣する時、フラストレーションを感じていると思われるプレイヤーや関係者に**近づいたり、至近距離（手の届く距離）でファウルのジェスチャーをしない**。また、テクニカルファウル等の**ジェスチャーを相手の顔などに向けて出さない**。

5．緊急事案等（暴力事案含）発生した場合は、主催している大会の審判長は都道府県審判長等を経由する場合もあるが、速やかに JBA に報告する。

【ガイドライン参考資料 3】　抗議の取り扱いについて（2019 競技規則改正）

1．基本的考え方

① 抗議については採用しない。

【理由】１）抗議の認定条件また認定後の対応等、詳細な規定の整備が困難。

２）規定が整備できた場合でも、都道府県・ブロックで開催する各種大会において、規定に則り速やかに対応できる機関設置が困難。

３）全ての大会（特に U18/15/12）において保証金の設定は現実的ではない。

４）全ての大会において証拠として認定する公式映像の採用が困難、等。

② 当分の間は、抗議に繋がる重大なトラブル防止のための取り組むべき対策を最優先し実施する。

③ ただし、大会要項において上記１①１）～４）で示した対応が適切に実施できる大会においては、JBA の承認により採用する事ができる。

2．抗議に繋がる重大なトラブル防止のために取り組むべき対策

① JBA として取り組むべき対策

１）審判員のレベルアップ

試合におけるスコアおよびクロックを訂正する権限があるため、判定だけでなく、スコア・クロックの管理も含めた TO との連携に関するマニュアルを作成し研修等で周知徹底していく。

２）TO のレベルアップ

スコアシートの記載、スコアの表示、クロックの管理等を行う TO 業務がスムーズに遂行できるように、また、TO 技術とともに TO 同士また TO と審判員との緊密な連携についても示した TO マニュアルを作成し、研修に向けたカリキュラムを構築する。

② 主催団体として取り組むべき対策

大会責任者としてスムーズな大会運営を行うため、TO 育成に向けた研修会の実施、また実際に TO を行う U18/15/12 補助役員のサポートのため TO 主任の設置および TO 主任研修の実施。そして重大なトラブルが発生した場合の速やかな対応ができる体制作り。

③ チーム（コーチ）として取り組むべき対策

試合（大会）のスムーズな進行に協力し、自チームに不利益とならないように、試合（大会）を成立させるため、

１）速やかにミスに対応できるようにコーチ自身もスコアおよびクロックの管理についての意識を高める。

２）コーチ自身が確認できない場合もあるため、スコアブックを記載するマネージャー等の指導育成をチームで実施。

３）明らかなミスがあった場合は、最初のボールデッドになった時、速やかに TO に確認を行う。ただし、プレー続行中に TO に確認を行うと、TO が更にミスをする可能性があるため避けなければならない。また、時間が経ってからの確認は審判・TO ともに確証がない可能性が高くなるため速やかな確認が必要。

3．重大なトラブルが発生した場合の対応

① 重大なトラブル発生時、主催団体（都道府県協会および都道府県連盟等）は速やかに審判委員会、TO 委員会および担当審判、担当 TO と連携し、以下を進めていく。

② 事実確認　　客観的事実に基づき事実確認を行う（証言だけでなく映像等により客観的事実の確認）

③ 事実確認に基づき原因の究明　　原因の明確化（上記２①～③で示した取り組むべき対策を基に原因を明確にする）

④ 再発防止　　上記３③を基に、再発防止のための具体的方策および各種指導（審判員含め）等の対応協議。

⑤ 上記３②～④を明確にした上で、競技規則 44-2-6、46-9 に則り、成立した試合における得点等の訂正等は行わない。

4．バスケットボールの価値を高めるために

試合（大会）は、主催団体、チーム（選手・コーチ）、審判員、TO が各々の責任を果たし、お互いが協力する事で成立する。そのためには、インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）に則り行動する事が重要である。

JBA の理念【バスケで日本を元気に】を実現するためには、バスケットボールに関わるバスケットボールファミリー全員がバスケットボールの価値を高めていくため、協力していく事が必要である。

【ガイドライン参考資料４】

ゲーム中のコーチによるプレーヤーへの
暴言、暴力的行為に対する対応方針（ガイドライン）

JBA では、**インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）**に則り、**「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」**を推進していきたいと考えています。これは、ゲームに関わる**プレーヤー、コーチ、レフェリー全ての協力でゲームの価値を高めようとする**取り組みであり、**ゲームを尊重する精神「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」**にそったものでもあります。

バスケットボールのゲームは、ゲームに関わる関係者のみならず、観客の存在も欠かすことができません。プレーヤー、コーチ、レフェリー、観客も含めてゲームの価値を高める努力をすることが必要です。そして、そのためには**コーチの振る舞い（行動や行為）**も非常に重要になってきます。コーチの振る舞いは、ゲームに関わる関係者（プレーヤー、レフェリー）に直接影響があるだけでなく、**ゲームを観ている観客の方々**にとっても大きな影響を与えます。

そこで、コーチの振る舞いについてある一定の基準を設けてテクニカルファウルの対象とし、**ゲームの価値を下げない取り組み**を推進することとしました。

【テクニカルファウルの対象となる振る舞い（行動・行為）】

１．コーチのプレーヤーに対する暴言

（１）人格、人権、存在を否定する言葉

〈具体例〉 最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様

（２）自尊心を傷つける、能力を否定する言葉

〈具体例〉 役立たず、下手くそ、アホ、バカ

（３）身体的特徴をけなす言葉

〈具体例〉 チビ、デブ

（４）恐怖感を与える言葉

〈具体例〉 殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

２．コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）

（１）殴る・蹴るなどを連想させる行為

（２）プレーヤーと近接（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為

（３）「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為

（４）継続的、かつ、度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為

（５）物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

３．第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）

（１）不潔な服装、裸足やスリッパでの指導

（参考資料）

ENGLAND BASKETBALL CODE OF ETHICS & CONDUCT

CANADA BASKETBALL CODE OF CONDUCT AND ETHICS

Basketball Australia Code of Conduct and Ethics For Team Coaches Officials and Support Staff

JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION
6F KORAKU-KAJIMA BUILDING, 1-7-27 KORAKU, BUNKYO-KU, TOKYO 112-0004 JAPAN
TEL: +81-3-4415-2020 FAX: +81-3-4415-2021 WEB: http://www.japanbasketball.jp/

2019 年 3 月 7 日
JBA 審判担当

2019 オフィシャルズ・マニュアル ポイント説明資料

p 3 ターミノロジー
審判をするうえでお互いにコミュニケーションをとるための用語。各自がそれぞれのターミノロジーの意味を把握・理解しミーティングなどを行うことが重要

p 12 IOT
主に 5 つの項目が出されているが、マニュアル内にはこの 5 つを基盤とした多くの技術が含まれている。
まずはこの 5 つの項目を正しく理解し実践につなげる中で、またそれにつながる技術へ進んでいってほしい、2 PO・3 PO 通じての基本的な技術。

p 15 四原則から IOT への移り変わり
今までの四原則がなくなったわけではなく、より実践やその言葉の意味に合わせて形を変えてきている。
また IOT としても今後進化していくことで項目が増えていく可能性も大いにあることを共有。

p 20 映像を活用した振り返り
映像では判定の成否をただ見て過ごすのではなく、その正しかった判定もしくは次に修正したいケースにどうメカニクスの視点や、その他プレゼンテーションの改善などを具体的に見つけていくかが重要である。
また「撮影した映像の権利の所在」については十分に注意し、SNS やその他拡散ツールで使用することは自分自身や組織に大きなリスクとなることを必ず指導していただきたい。

p 21 シグナル
プレゼンテーションの大きなひとつである、テーブルプレゼンテーションは今後も各自が鏡などをつかって練習したり、より各都道府県を代表する審判としての意識を高めたプレゼンを披露してほしい。
また声を使うこと、シグナルの高さなど、意識をもって練習し実践することで、コート上でのパフォーマンスが見られている意識を高めていってほしい。

p 42 ショットクロック
オフェンスにテクニカルファウルが宣せられた場合などで、ショットクロックが継続になるケースでは一度ショットクロックを消す必要はないため、TO 関連としても共有事項となる。

p 42 マジックタイム
時計を確認した時点でゲームクロックとショットクロックから、次にバイオレーションがおきるタイミングなどを把握する技術。特に IRS がない環境で時計の管理をする場合に重要な役割を果たすことになるため、各都道府県、早い段階からこの技術を習慣化していくことで、ゲーム中のトラブルの予防につなげてほしい。

【2PO】

ｐ51　両審判の責任と協力

3PO でも同様の課題にチャレンジしていくが、２PO においても「誰が見るべきで、いつチェックイン・チェックアウトしているのか」をできる限り意識していきたい。一方で、３PO に比べて２PO はひとりひとりがカバーするべき項目が増えるため、３PO ほどメカニズムにそってプライマリの把握ができない部分はどうしても生じてしまう。

また、現在すすめている項目の中で、クルーチーフ・メンタリティがあるが、コートの上ではクルーチーフもアンパイアも区別はなく、お互いが協力してはじめてレフェリングが機能することをすすめてほしい。経験や年齢だけで決まることは少なく、誰もがお互いをリスペクトし、称賛し、また疑問を一緒に解決していく環境と雰囲気を作っていってほしい。

ｐ58　トレイル

ショットに対してのレフェリングは３PO・２PO どちらでも大きなチャレンジであり、特にトレイルのレベルに関して意識する。　２PO ではほかの位置にボールがある場合も含めてトレイルの可動区域が増えるが、まずはアングルをとるために「アウトサイドイン」や「ロートレイル」の理解をもって対応してほしい。

ｐ59　トレイル（ボールはエリア４）

リードが見えない部分をトレイルが把握する。 これは場面によっては３PO でいうセンターの役割であったり、他の場面によってはトレイルとしてのアングルになる場面もあるかと思うが、重要な部分として「リードがレフェリーしているプレーの裏側や、リードが見ていない部分に飛び込んでくるプレーなどを把握しレフェリーする」ことである。

ｐ61　リード（ボールはエリア６）

同様に、トレイルが見えない部分を把握しレフェリングする協力。

ｐ62～64　フロアバランスが右側に集中している場合（リードが右側にいくケース）

・原則リードは右側にいけるタイミングでは移動することを推奨するが、右側に３ペアいたらすべてのケースで移動するわけではなく、右側に移動する「理由（アクティブなマッチアップなどが）」は何かを把握しておくことが重要

・アクティブなポストアップなどがあれば右側に移動する。

・右に移動する際は「テンポよく歩いて移動」、トレイルはポジションを少しあげるなどアジャスト

・リードは右から左に戻る場合、必要に応じて「走っても良い」

・ショットクロックが５秒未満の場合は右側に移動しない

・右側に移動しようとするタイミングでリングに向かうドライブやショットが起きた時には移動を中断する

ｐ67　OOB の協力

・基本的にまず「プライマリが判断」することを怠らない

・そのうえでヘルプをするオフィシャルは「100%の確信」をもってヘルプを行う

・OOB の訂正の頻度が多ければ多いほど、ゲーム中の判定の信憑性が落ちてしまうリスクを把握して、それでも訂正が必要な場面かどうかを判断し、必要であればヘルプを行う

ｐ75　スローイン（残り 2 分でのプリベンティブシグナル）
ここではルールの確認となるが、残り 2 分でのスローインではシグナルをだすことでルールの徹底を図る。

ｐ93　テクニカルファウルが宣せられた場合
ここでもルールの確認として「テクニカルでは FT1 本、挟み込みで行う」ことを確認。
テクニカルを宣する際、笛を吹く前に必ず「ボールステータス（ボールの状態）」を確認する。

【3PO】
ｐ105　フロアカバレージ
・プライマリには「エリア」と「アングル」があることを改めて確認
・プライマリエリアとアングルをもっている審判が 1 番手となる

ｐ110　ウィークサイドでのトラップ
図のように、センターサイド、特にセンターラインに近い部分でトラップやプレッシャーなどがある場合、センターはそのボールのマッチアップを無視することはできない。
センターとしてポジションをアジャストし、プレーをカバーするが、同時にリードとしてはセンターが躊躇なくボールをカバーできるようにローテーションのタイミングをプッシュすることを確認。もしくはリードがローテーションできなかった場合はセンターはボールの展開に合わせてポジションをリカバーできるようにすることが重要。

ｐ114　スティール・ターンオーバーの対応
マニュアル内にある図をイメージとし、スティールが起きたときに、センターとトレイル、どちらがビジーなのかを把握しそれに近いほうのオフィシャルはボールを無視できないため、他の二人がそれに合わせて次のポジションをアジャストすることを確認。　センターとトレイルの絶妙なコンビネーションが重要となる。

ｐ124　スコアもしくはノースコアの判定
残り 5 秒未満で、バックコートから新たなコントロールが始まった場合は、センターがプライマリとしてスコアの成否を判定する。

ｐ131　チームファウルのカウントとコミュニケーション
チームファウル 3 つでボーナスシグナル、4 つでも同様にネクストボーナスと意思を共有。
これはボーナスシグナルを出すことが目的ではなく、「チームファウルを把握していること」、そして、「フリースローボーナスであることを把握し、シューターを見間違えない」ことに目的があることを共有。

平成30年　第71回　都民体育大会バスケットボール競技

△＝男子

決勝

千代田区		文京区
72	25 — 17	69
	16 — 15	
	11 — 16	
	20 — 21	

桑原一貴(社)　瓜田真司(社)

出場チーム

No.	チーム	No.	チーム
1	千代田区	23	文京区
2	西東京市	24	杉並区
3	葛飾区	25	東村山市
4	日野市	26	墨田区
5	品川区	27	三鷹市
6	江戸川区	28	港区
7	町田市	29	中央区
8	小平市	30	羽村市
9	立川市	31	東大和市
10	豊島区	32	大田区
11	世田谷区	33	足立区
12	新宿区	34	稲城市
13	渋谷区	35	国分寺市
14	青梅市	36	武蔵野市
15	台東区	37	荒川区
16	福生市	38	調布市
17	板橋区	39	国立市
18	狛江市	40	江東区
19	中野区	41	昭島市
20	武蔵村山市	42	八王子市
21	北区	43	府中市
22	小金井市	44	練馬区

試合結果

対戦	スコア	審判
西東京市 － 葛飾区	84 － 60	簑田昌臣(社)　望月一成(社)
千代田区 － 西東京市	65 － 48	桑原一貴(社)　黒澤亮(社)
日野市 － 品川区	52 － 101	角田昌一(社)　堀越和音(社)
品川区 － 江戸川区	100 － 88	山崎昭一(社)　馬場圭佑(中)
千代田区 － 品川区	71 － 54	桑原一貴(社)　前田明人(男)
町田市 － 小平市	0 － 20	山田亮太(社)　豊島浩章(中)
立川市 － 豊島区	66 － 67	奥村博之(社)　金井竜也(ミ)
豊島区 － 世田谷区	49 － 80	臼井二郎(社)　中田新(中)
小平市 － 世田谷区	77 － 114	松永航平(女)　上久保顕(社)
千代田区 － 世田谷区	75 － 52	渡辺知之(社)　山田亮太(社)
渋谷区 － 青梅市	98 － 56	工藤量夫(社)　亀田修司(社)
新宿区 － 渋谷区	88 － 78	浅倉豪(社)　山口大貴(社)
台東区 － 福生市	80 － 84	村田真(社)　品田雄太朗(中)
新宿区 － 福生市	79 － 59	飯田一行(社)　前橋裕之(社)
狛江市 － 中野区	61 － 58	若林徹(社)　金子和弘(社)
板橋区 － 狛江市	86 － 50	目崎一将(男)　橋本昌樹(中)
武蔵村山市 － 北区	97 － 100	芦澤英樹(社)　粟竹裕幸(ミ)
北区 － 小金井市	74 － 87	和嶋宏典(男)　松本遼太(社)
板橋区 － 小金井市	72 － 51	望月直幸(社)　樋上裕太(社)
新宿区 － 板橋区	61 － 79	伊東純希(中)　運道慎(社)
千代田区 － 板橋区	65 － 54	新井文明(社)　上阪紘也(ミ)
杉並区 － 東村山市	72 － 87	下津正太郎(社)　豊沢瑠人(社)
文京区 － 東村山市	98 － 78	島袋竹志(社)　粟田真(社)
墨田区 － 三鷹市	53 － 83	新井文明(社)　遠山周平(男)
文京区 － 三鷹市	69 － 54	山崎昭一(社)　山村洋史(中)
中央区 － 羽村市	89 － 62	山口功(社)　加瀬健人(ミ)
港区 － 中央区	97 － 76	石川丈晴(男)　黒澤亮(社)
東大和市 － 大田区	76 － 114	瓜田真司(社)　赤星隆幸(男)
港区 － 大田区	93 － 108	野間章男(社)　粟田真(社)
文京区 － 大田区	90 － 78	上阪紘也(ミ)　中島大希(社)
稲城市 － 国分寺市	101 － 57	安部克彦(社)　田澤隆三(社)
足立区 － 稲城市	86 － 65	加瀬健人(ミ)　山本真大(中)
武蔵野市 － 荒川区	123 － 50	村田真(社)　上村一弘(中)
武蔵野市 － 調布市	70 － 62	本間充(社)　成田一馬(男)
足立区 － 武蔵野市	73 － 59	渡辺裕樹(社)　進藤道弘(ミ)
江東区 － 昭島市	103 － 47	安井義徳(社)　橋本昌樹(中)
国立市 － 江東区	79 － 92	奥村博之(社)　菊池裕樹(男)
八王子市 － 府中市	65 － 79	浅野一(社)　進藤道弘(ミ)
府中市 － 練馬区	45 － 93	鈴木伴之助(男)　亀田修司(社)
江東区 － 練馬区	62 － 81	川崎洋次郎(社)　市橋祐介(中)
足立区 － 練馬区	100 － 79	粟竹裕幸(ミ)　稲田翔人(社)
文京区 － 足立区	70 － 64	吉田俊昭(社)　運道慎(社)
千代田区 － 文京区	72 － 69	桑原一貴(社)　瓜田真司(社)

平成30年　第71回　都民体育大会バスケットボール競技

○＝女子

練馬区　80　16 － 9　17 － 15　21 － 13　26 － 18　**55　江東区**

濱雄介（社）
一杉あきの（社）

練馬区 1
西村幸司（社）
墨田区 2
白井亜美（ミ）
三好英美（社）
豊島区 3
鳥谷悠哉（中）
新宿区 4
前原清隆（社）
相川真凜（女）
昭島市 5
片岡久子（社）
堀田祥世（中）
福生市 6
浅野一（社）
馬場圭佑（中）
江戸川区 7
柳下悦子（社）
松村晃（中）
狛江市 8
本郷則一（社）
堀越和音（社）
八王子市 9
一杉あきの（社）
瀧田政宏（社）
港区 10
奥山美穂（社）
粟竹裕幸（ミ）
杉並区 11
本間さとみ（社）
増田雄（社）
台東区 12
神谷郁代（中）
長沼越百（ミ）
武蔵野市 13
七田真美（社）
桑原由貴（社）
世田谷区 14
岩田明穂（社）
井澤元花（ミ）
文京区 15
高橋哲雄（社）
千葉美幸（社）
三鷹市 16
本間さとみ（社）
竹澤安梨沙（女）
品川区 17
奥山美穂（社）
川畑睦（ミ）

78 / 54 / 67 / 58 / 94 / 59 / 76 / 66 / 97 / 64 / 80 / 65 / 54 / 86 / 59 / 89 / 80 / 58 / 71 / 72 / 111 / 51 / 67 / 78 / 68 / 62 / 87 / 86 / 77 / 68 / 58 / 45

18 江東区
小林準（社）
19 調布市
安部秀斗（社）
20 板橋区
貫井義昭（社）
豊島浩章（中）
21 東村山市
本郷則一（社）
穴井正人（社）
22 中央区
吉宇田和泉（社）
奥山美穂（社）
23 日野市
大川貴子（社）
久我剛弘（ミ）
24 足立区
岡野隆俊（社）
上田貴代美（社）
25 中野区
大岩正（社）
渡邉みのり（社）
26 小金井市
島袋竹志（社）
井澤元花（ミ）
27 武蔵村山市
神谷郁代（中）
望月一成（社）
28 北区
宮本佳子（社）
七田真美（社）
29 国立市
島田永秀（社）
熊井勇介（社）
30 千代田区
下津正太郎（社）
千葉美幸（社）
31 小平市
森田良治（社）
山口功（社）
32 渋谷区
高橋博文（社）
川畑睦（ミ）
33 荒川区
瓜田真司（社）
篠田志津香（社）
34 大田区
大川貴子（社）
伊佐牧子（女）

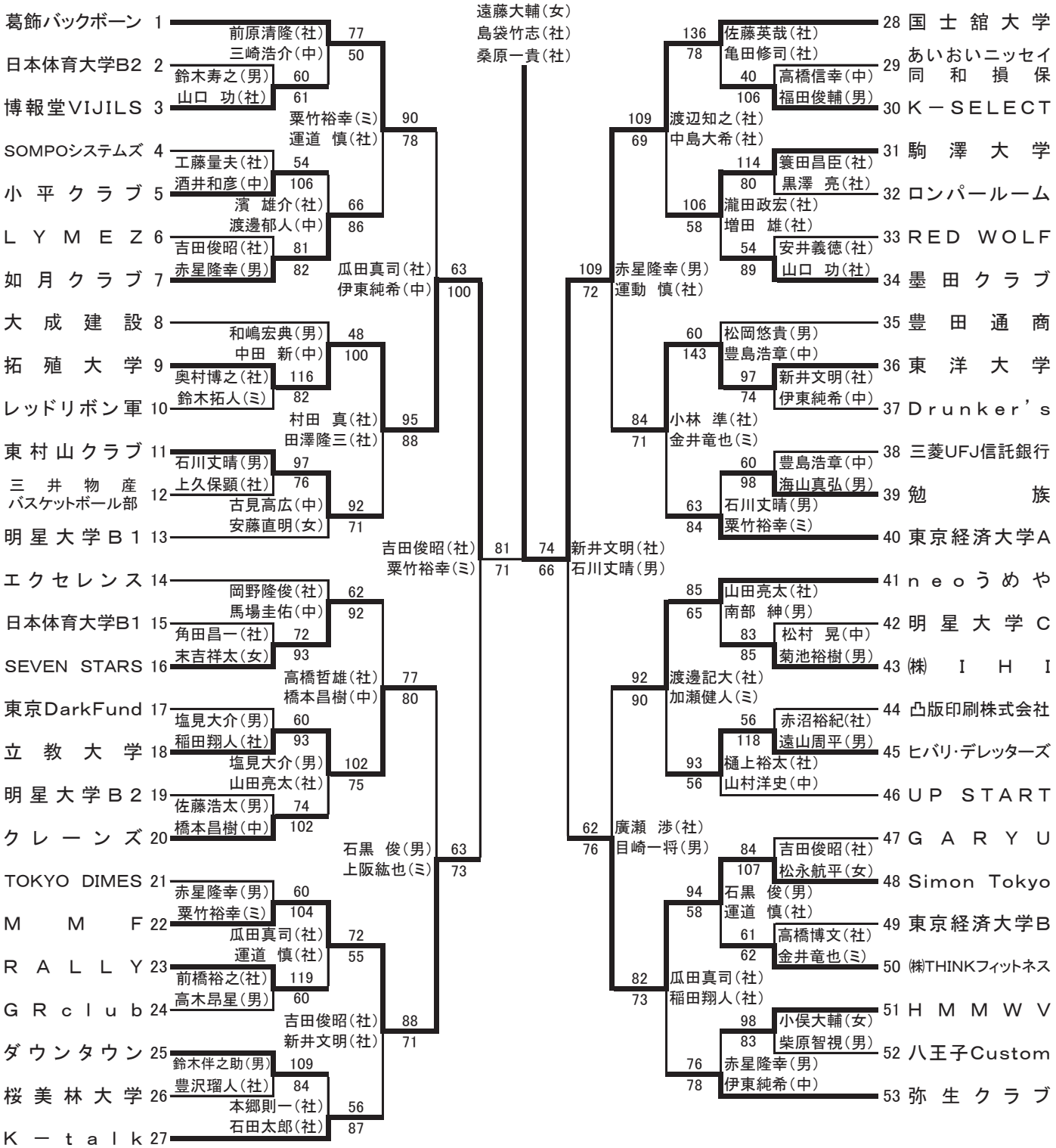
78 / 51 / 64 / 46 / 82 / 70 / 72 / 59 / 78 / 56 / 78 / 67 / 53 / 58 / 78 / 75 / 88 / 58 / 92 / 67 / 91 / 47 / 80 / 74 / 83 / 60 / 79 / 90 / 65 / 85 / 61 / 83

平成30年度　東京都バスケットボール夏季選手権大会

△＝男　子

拓　殖　大　学　99　｛20－35／18－21／25－26／36－24｝　**104　国　士　館　大　学**

遠藤大輔（女）
島袋竹志（社）
桑原一貴（社）

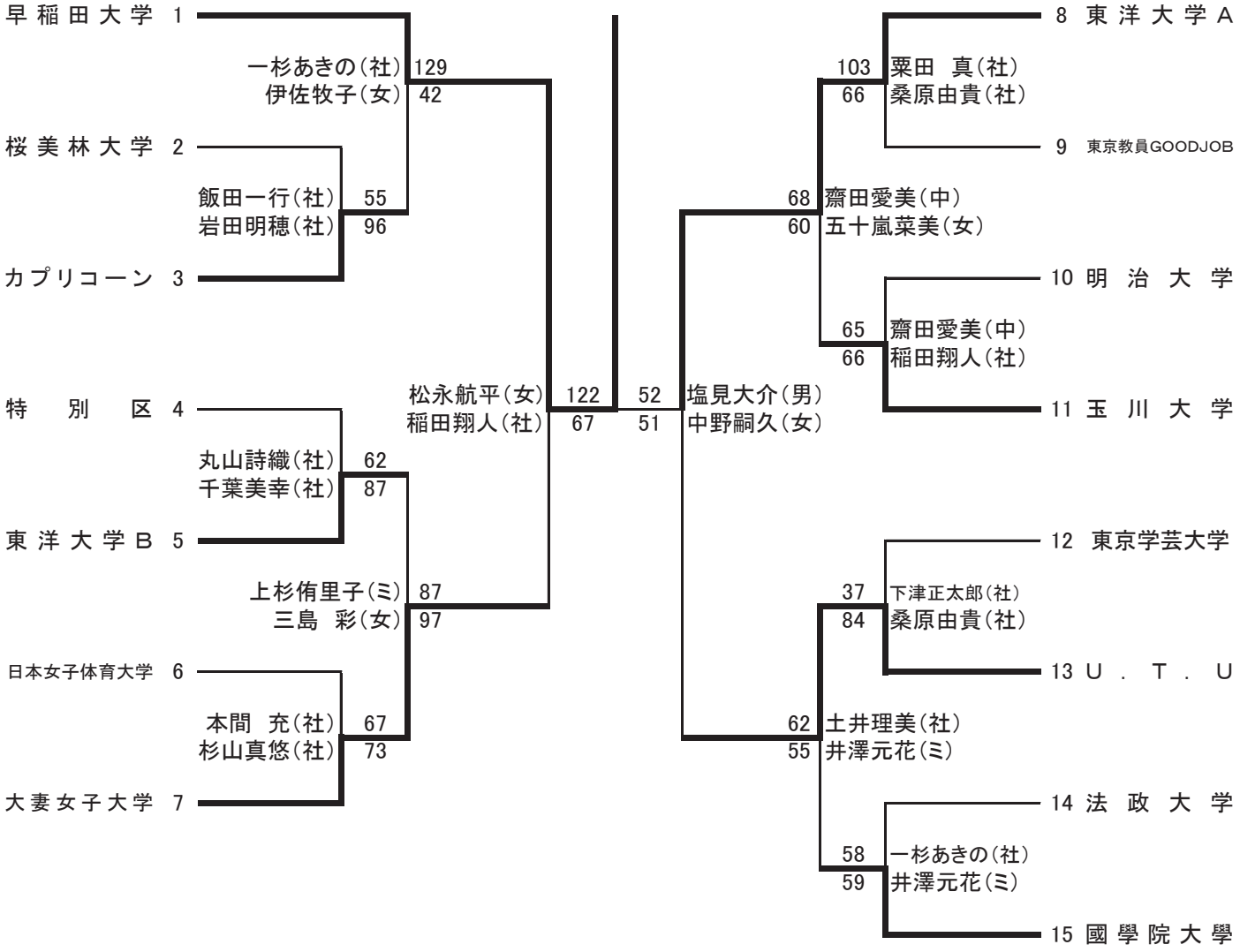


平成30年度　東京都バスケットボール夏季選手権大会

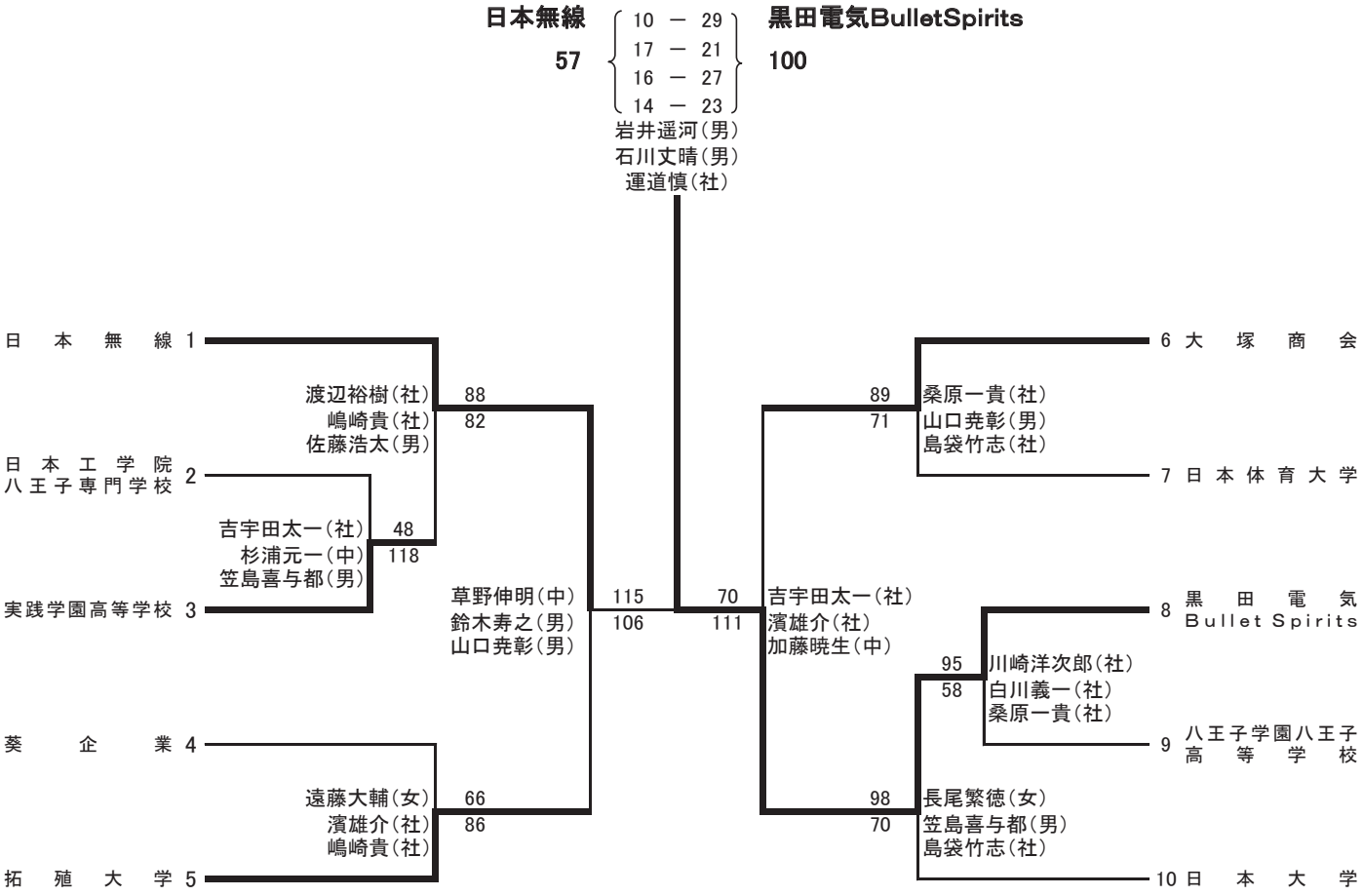
女子

早稲田大学 108 ｜ 34－8 / 22－12 / 33－17 / 19－3 ｜ 40 **東洋大学A**

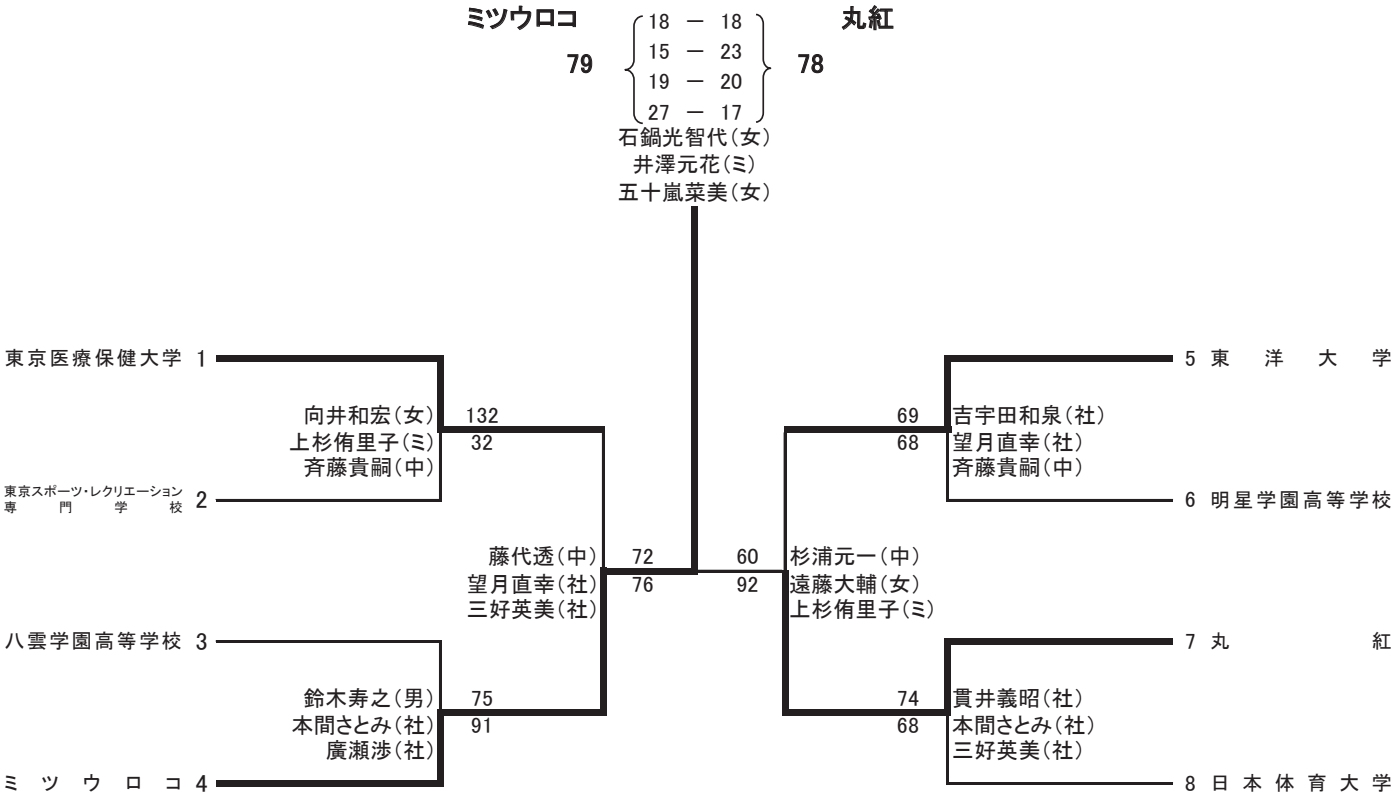
望月直幸(社)
白川義一(社)
本間さとみ(社)



第94回天皇杯　全日本バスケットボール選手権大会　東京都予選



第85回皇后杯　全日本バスケットボール選手権大会　東京都予選

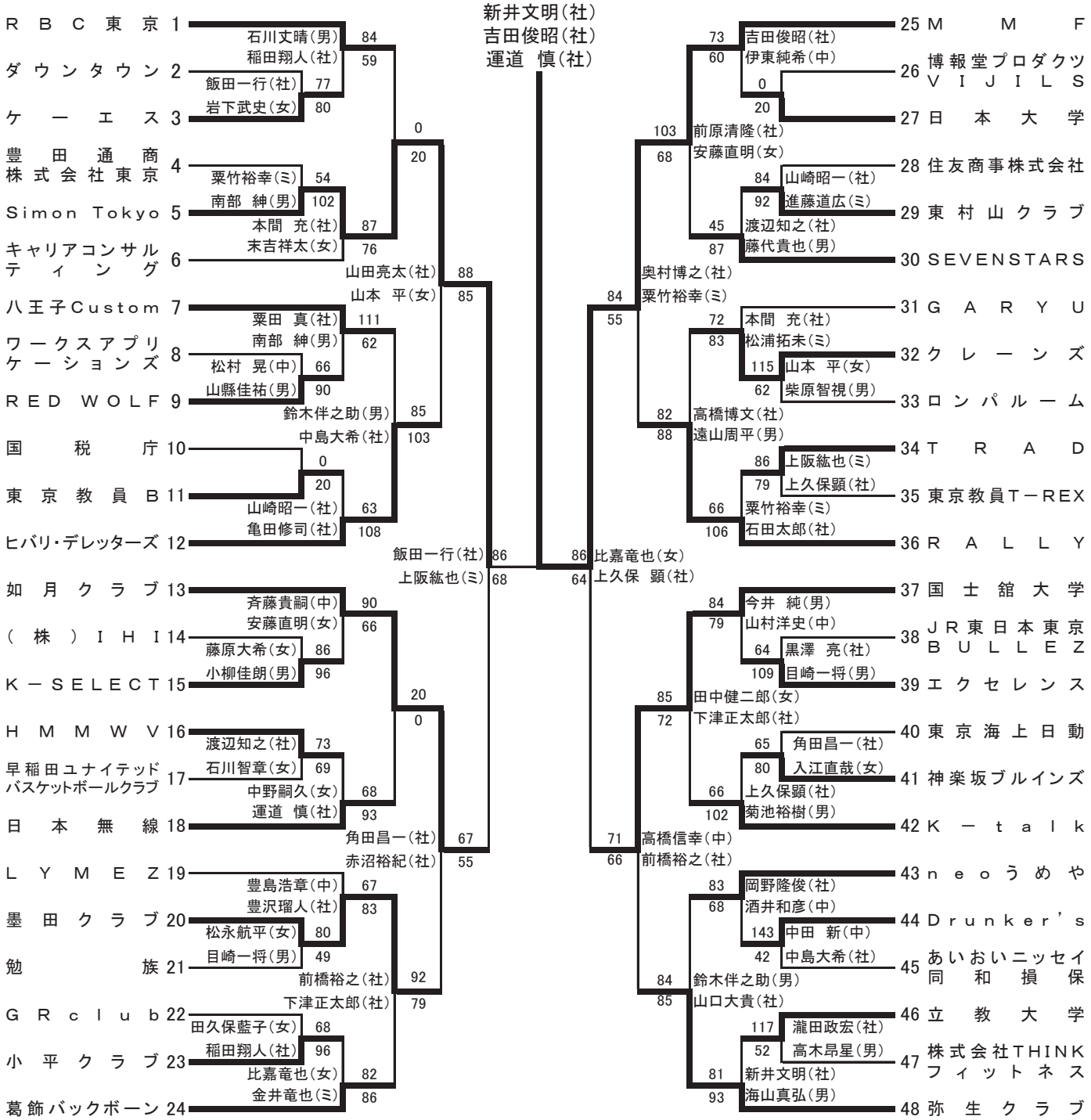


平成30年度　東京都バスケットボール秋季選手権大会

△＝男子

Simon Tokyo 70 ｛ 14 － 26 / 21 － 18 / 25 － 15 / 10 － 20 ｝ MMF 79

新井文明(社)
吉田俊昭(社)
運道　慎(社)



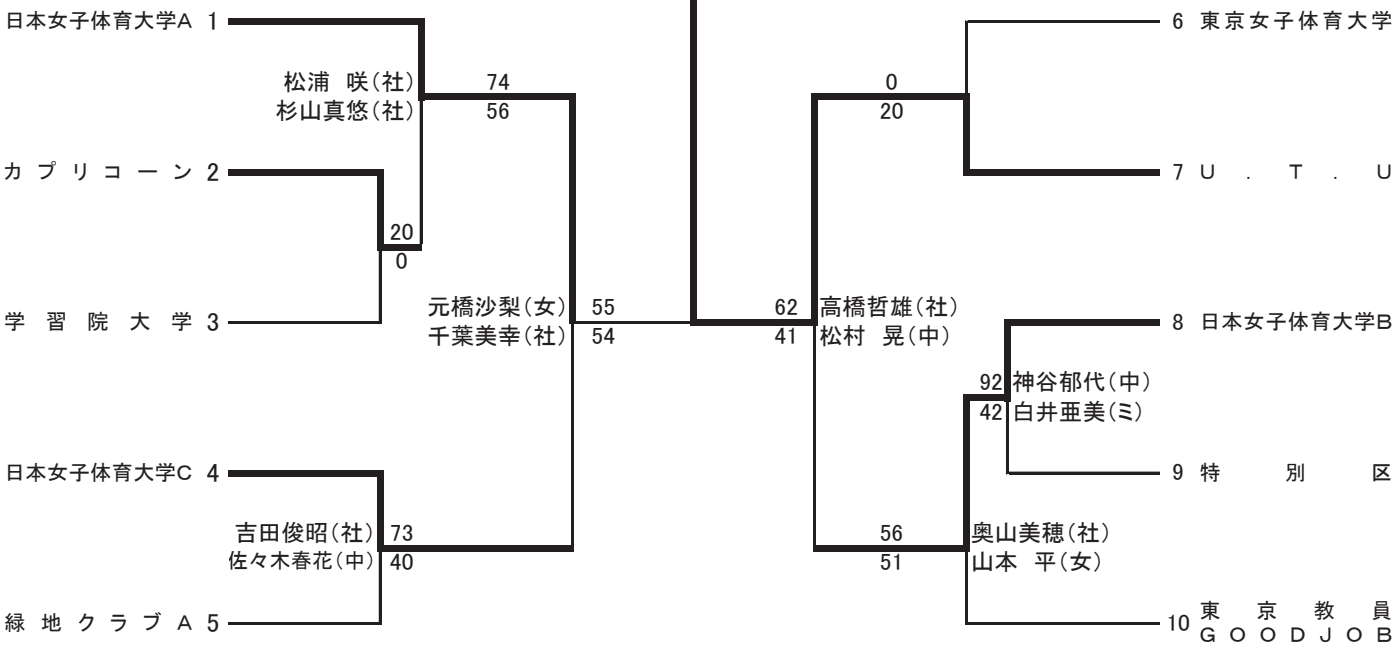
平成30年度　東京都バスケットボール秋季選手権大会

女子

日本女子体育大学A　71　－　74　U. T. U

13 － 21
8 － 18
22 － 18
28 － 17

斉藤貴嗣（中）
飯田一行（社）
神谷郁代（中）



平成30年度　東京都青年大会

△＝男　子

東　村　山　市　96　｛ 22 － 26 / 31 － 24 / 18 － 33 / 25 － 24 ｝　107　**武　蔵　野　市**

原添さやか（中）
三島　彩（女）
櫻井　栞（社）

世田谷区 1
本郷則一（社）　86
岩淵拓弥（男）　65
多摩市 2
山口　功（社）　85
比嘉竜也（女）　70
日野市 3
前橋裕之（社）　77
星野　駿（学）　59
中野区 4
臼井二郎（社）　90
橋本昌樹（中）　93
江東区 5
野間章男（社）　62
成田一馬（男）　60
武蔵村山市 6
元橋沙梨（女）　91
大野　葵（学）　109
佐々木春花（中）
荒川区 7
藤原貴也（男）　87
岩下武史（女）　75
国分寺市 8
簑田昌臣（社）　46
海山真弘（男）　128
小金井市 9
榊原　大（男）　80
増田　雄（社）　87
東村山市 10
奥村博之（社）　89
遠山周平（男）　83
府中市 11
鈴木伴之助（男）　96
堀越和音（社）　78
豊島区 12

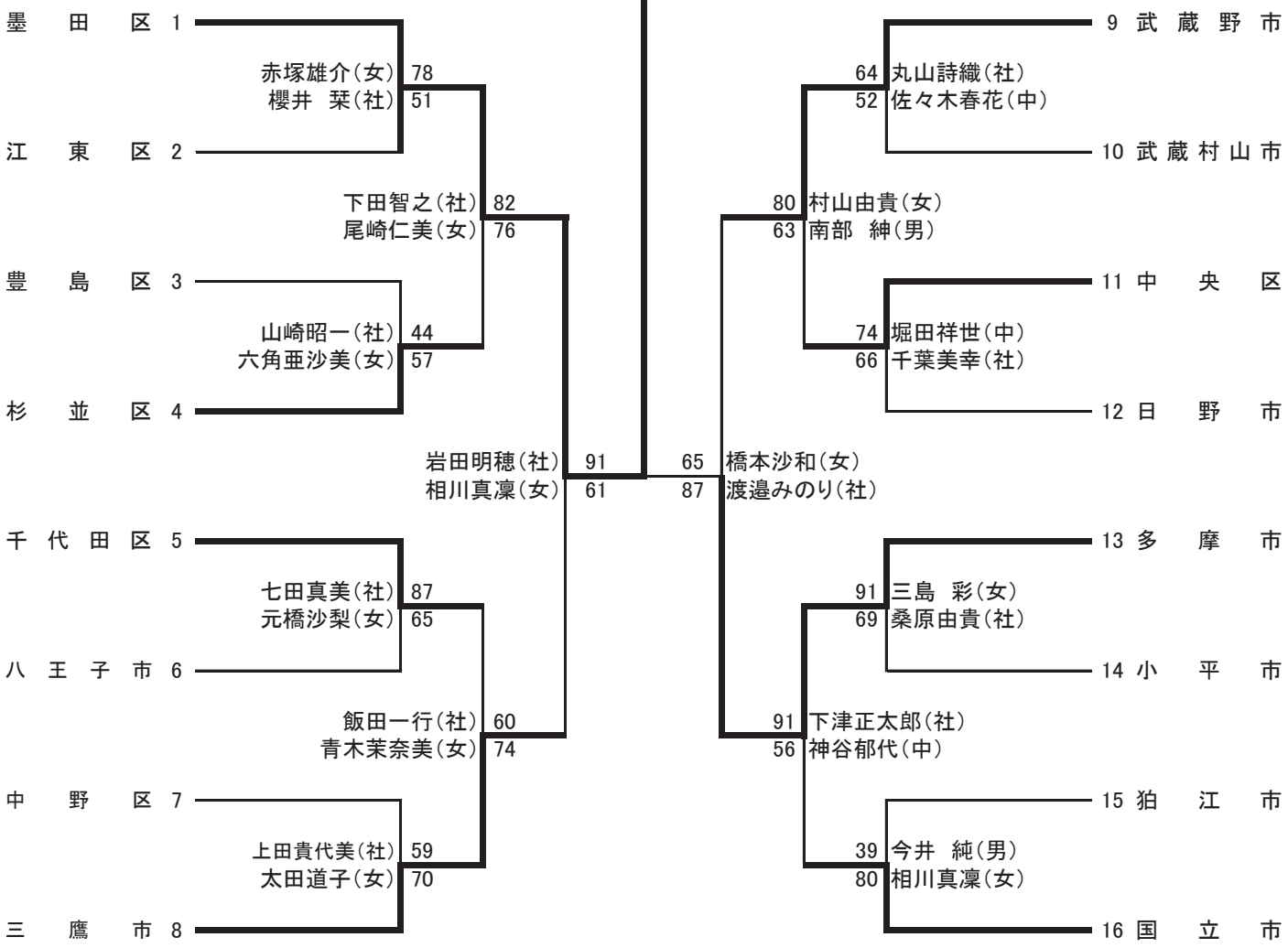
13 町田市
増田　雄（社）　66
末吉祥太（女）　93
14 八王子市
鈴木裕幸（男）　76
安藤直明（女）　65
15 中央区
樋上裕太（社）　73
村上　翔（学）　116
16 狛江市
角田昌一（社）　86
菊池裕樹（男）　75
17 国立市
村田　真（社）　73
田澤隆三（社）　107
18 武蔵野市
一杉あきの（社）　82
吉岡幸乃（女）　78
千葉美幸（社）
19 千代田区
和嶋宏典（男）　63
進藤道広（ミ）　62
20 練馬区
山本　平（女）　93
渡邊郁人（中）　81
21 板橋区
瀧田政宏（社）　86
土取弘輝（学）　70
22 小平市
金子和弘（社）　75
後嵩西　倭（女）　74
23 杉並区
桜井　剛（社）　64
松岡悠貴（男）　98
24 稲城市

平成30年度　東京都青年大会

○＝女　子

東　村　山　市　115　｛22 － 8／37 － 14／25 － 20／31 － 19｝　61　**武　蔵　野　市**

土井理美（社）
神谷郁代（中）
丸山詩織（社）

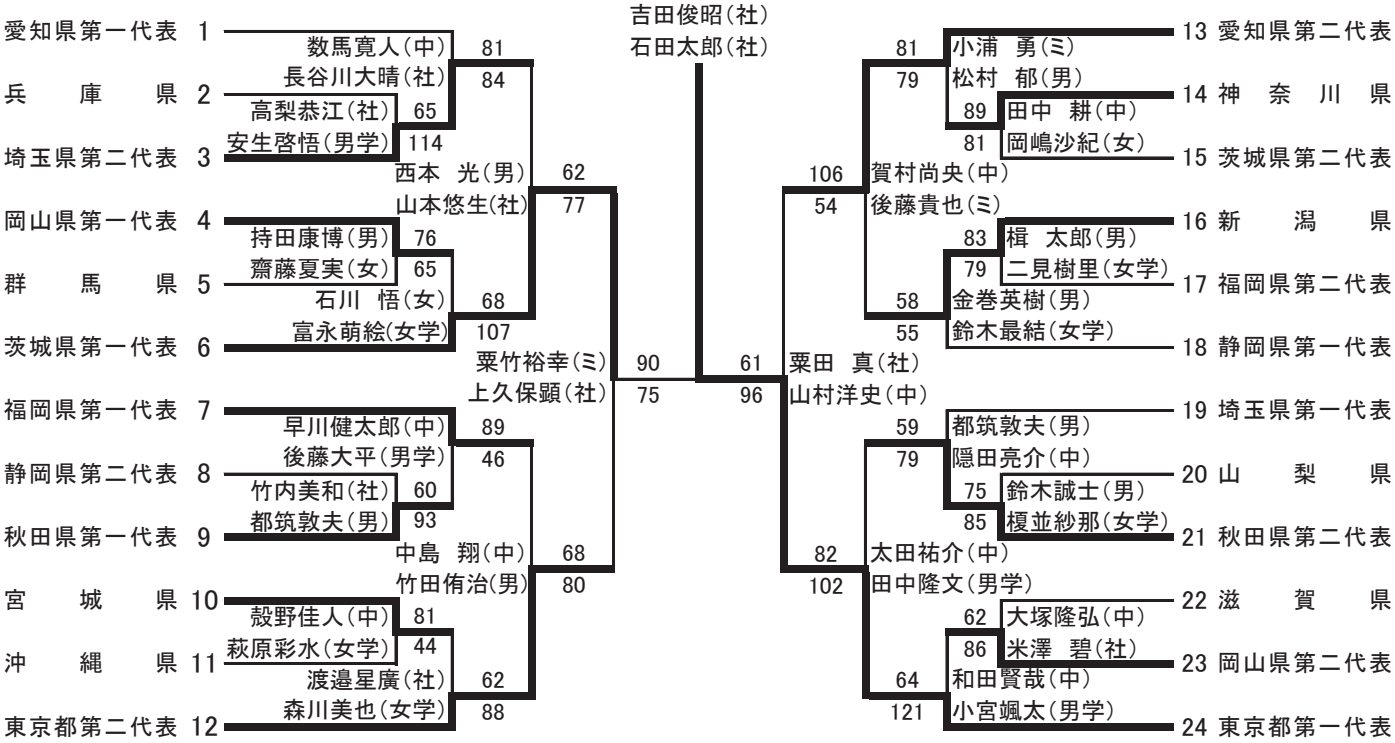


平成30年度　全国青年大会

▲＝男　子

茨城県第一代表 94 ｜ 31 － 26 / 21 － 21 / 15 － 27 / 27 － 25 ｜ 99 **東京都第一代表**

吉田俊昭（社）
石田太郎（社）

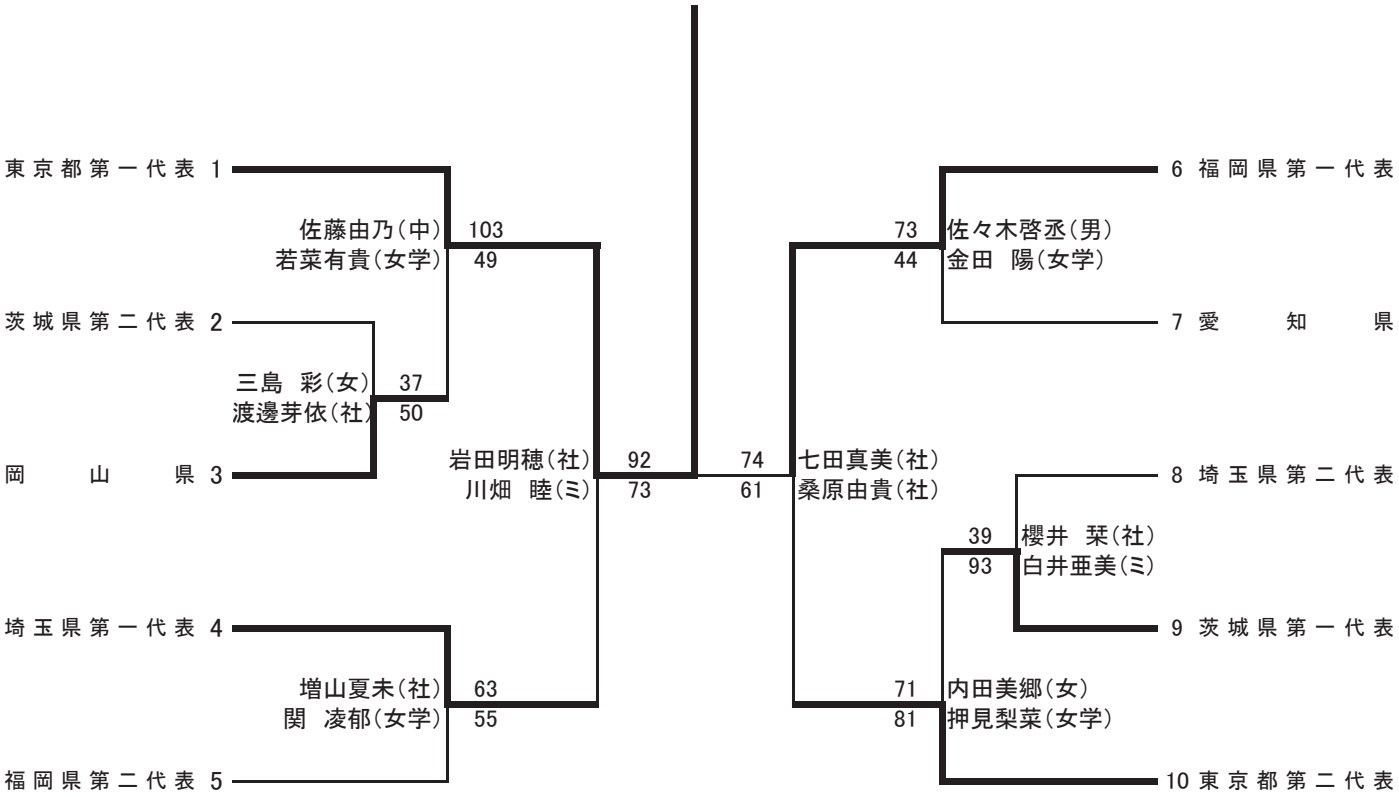


平成30年度　全国青年大会

●＝女子

東京都第一代表 90　23 － 10　28 － 11　18 － 19　21 － 8　**48 福岡県第一代表**

目崎一将（男）
田澤隆三（社）



第28回　全国高等学校定時制通信制バスケットボール大会

男子対戦表

県立博多青松（通）（福岡）　72　｜　51　天理（奈良）

19 － 10
35 － 4
8 － 24
10 － 13

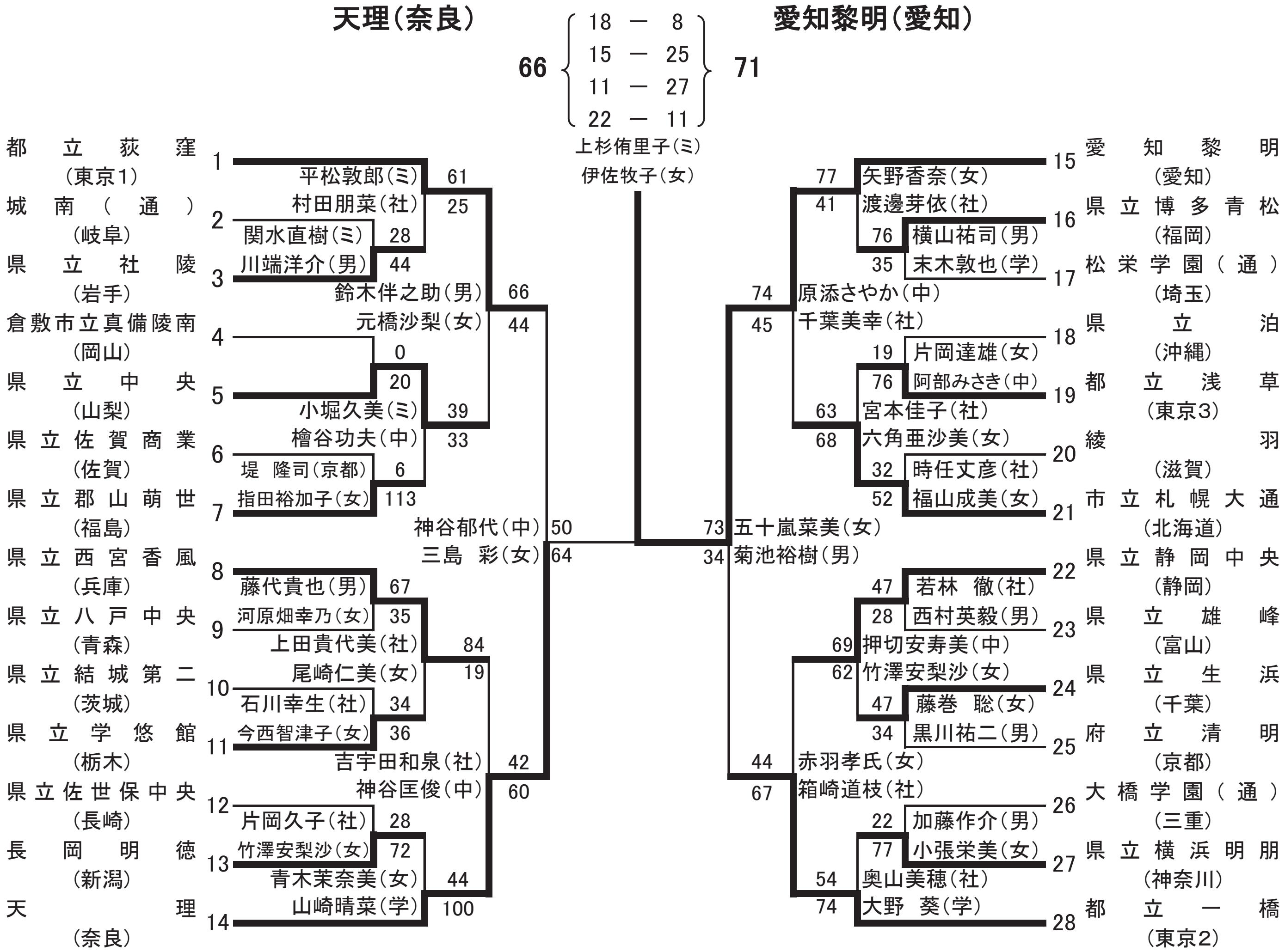
濱　雄介（社）
上阪紘也（ミ）

1 都立浅草（東京1）　古川雄一（愛知）
2 県立松江工業（島根）　五十嵐菜美（女）　菊池　誠（北海道）
3 県立尾上総合（青森）　中野嗣久（女）
4 県立高知東工業（高知）　入江直哉（女）　喜久川裕起（社）
5 市立札幌大通（北海道1）　俵川高明（女）　菊池裕樹（男）
6 県立高松工芸（香川）　松岡悠貴（男）　中島大希（社）
7 県立新居浜西（愛媛）　藤原大希（女）　豊島浩章（中）
8 県立西（広島）　田中健二朗（女）　南部　紳（男）
9 県立佐渡相川分校（新潟）　吉田俊昭（社）　関谷洋平（中）
10 府立鳥羽（京都）　赤星隆幸（男）　土取弘輝（学）
11 仙台市立仙台大志（宮城）　森田良治（社）　小柳佳朗（男）
12 都立立川（東京3）　神谷郁代（中）　千葉美幸（社）
13 名古屋市立中央（愛知）　石鍋光智代（女）　目崎一将（男）
14 県立開陽（鹿児島）　白川義一（社）　山村洋史（中）
15 県立学悠館（栃木）　木本健一（男）　末吉祥太（女）
16 県立鳥栖工業（佐賀）　高橋哲雄（社）　菊池裕樹（男）
17 都立町田（東京4）　高橋博文（社）　夏原智史（男）
18 県立北星（三重）　七田真美（社）　竹谷菜緒（女）
19 県立宮崎東（通）（宮崎）　藤代貴也（男）　山口大貴（社）
20 綾羽（滋賀）　本郷則一（社）　加藤作介（男）
21 県立茎崎（茨城）　佐伯彰一（男）　石川恵一（中）
22 県立佐世保中央（長崎）　横山祐司（男）　星野　駿（学）
23 県立越ケ谷（埼玉）　小俣大輔（女）　長岡光一（男）
24 県立博多青松（通）（福岡）　市原正夫（男）　松浦拓未（ミ）

25 横浜市立戸塚（神奈川）　原添さやか（中）
26 県立浜名（静岡）　吉岡幸乃（女）　寺崎真也（女）
27 県立秋田明徳館（秋田）　目崎一将（男）
28 県立熊本工業（熊本）　村田　真（社）　末木敦也（学）
29 県立山口（山口）　高橋信幸（中）　岩下武史（女）
30 県立雄峰（富山）　十代隆之（社）　入江直哉（女）
31 県立霞城学園（山形）　塩見大介（男）　石田太郎（男）
32 県立大分工業（大分）　小林　準（社）　中田　新（中）
33 北海道札幌琴似工業（北海道2）　山下和久（社）　土取弘輝（学）
34 県立泊（通）（沖縄）　松村　晃（中）　寺崎真也（女）
35 県立中央（山梨）　芦澤英樹（社）　櫻井英慶（男）
36 県立生浜（千葉）　工藤量夫（社）　高木昂星（男）
37 都立荻窪（東京2）　杉浦元一（中）　豊沢瑠人（社）
38 城南（通）（岐阜）　比嘉竜也（女）　原　弘高（男）
39 長野県松本筑摩（長野）　川越　理（男）　星野　駿（学）
40 倉敷市立倉敷翔南（岡山）　赤塚雄介（女）　村上　翔（学）
41 県立社陵（岩手）　稲田翔人（社）　岩淵拓弥（男）
42 向陽台（通）（大阪）　丸山詩織（社）　八尾いとみ（女）
43 県立徳島中央（徳島）　菊池　誠（北海道）　石川丈晴（男）
44 県立大野（福井）　三島　彩（女）　櫻井　栞（社）
45 県立郡山萌世（福島）　黒澤　亮（社）　寺門一馬（中）
46 県立神崎工業（兵庫）　上阪紘也（ミ）　後藤良太（学）
47 県立伊勢崎工業（群馬）　大串明彦（男）　村上　翔（学）
48 天理（奈良）　元橋沙梨（女）　佐々木春花（中）

第28回　全国高等学校定時制通信制バスケットボール大会

女子対戦表



平成31年度昇格者

S級

嶋崎 貴
加藤 暁生
桑原 一貴
遠藤 大輔

A級

稲田 翔人
石川 丈晴
新井 文明
五十嵐 菜美
伊佐 牧子
一杉 あきの

平成31年度A級ブロック推薦者

笠島 喜与都
島袋 竹志
山口 尭彰
上杉 侑里子
本間 さとみ

平成31年度B級指名強化審判員

瓜田 真司
運道 慎
山崎 昭一
岩田 明穂
上久保 顕
吉田 俊昭
石黒 俊
赤星 隆幸
塩見 大介
松岡 悠貴
中野 嗣久
比嘉 竜也
三島 彩
安藤 直明
松永 航平
豊島 浩章
三崎 浩介
押切 安寿美
上阪 紘也
粟竹 裕幸
千葉 美幸